

平成25年度

第1回 県政モニターアンケート



長野県

目 次

I	調査の概要	-----	1
II	結果の内容	-----	5
	(1) 長野県の「山」について		
	問1 長野県の「山」のイメージ		6
	問2 長野県の「山」に対する興味		7
	問3 長野県の「山」との関わり方		8
	問4 長野県の「山」に関する課題		9
	問5 長野県の「山の日」(仮称)の制定		10
	問6 長野県の「山の日」(仮称)の時期		11
	問7 長野県の「山の日」(仮称)の名称		13
	問8 長野県の「山の日」(仮称)に関する取組		14
	(2) 児童虐待防止対策について		
	問9 家庭での子育ての経験		15
	問10 子育てを負担に感じるとき、子育てに悩むとき		16
	問11 子育ての負担や悩みの相談		17
	問12 子育ての負担や悩みの相談先		18
	問13 子育ての負担や悩みを相談しなかった理由		19
	問14 関係機関へ早期に相談してもらうために重要なこと		20
	問15 通告制度に関する知識		21
	問16 通告するときの不安		22
	問17 児童虐待にあたると思う行為		23
	問18 虐待の早期把握のために重要なこと		24
	問19 県の広報啓発の認知度		25
	問20 広報啓発による意識・行動の変化		26
	問21 意識・行動の変化の内容		27
	問22 児童虐待の原因と解決策についての考え		28
III	調査票	-----	29

I 調 査 の 概 要

1 調査の目的・項目

県政の課題について「県政モニターアンケート調査」を実施しました。今回の調査においては下記の2項目について22問を設定しました。

(1) 長野県の「山」について

長野県には、3,000m級の山岳が15座あるほか、県土の約8割が森林に覆われており、「山」は、県民の生活、文化、産業と様々な方面で関わりがあるといえます。
そのため、「山」に関する県民の皆様の意識等をお伺いしました。

(2) 児童虐待防止対策について

児童虐待は児童相談所の対応件数が全国的に増加し、死亡事例も後を絶たないなど、社会全体で解決すべき大きな課題となっています。
このため、虐待防止に係る県民の皆様の意識や効果的と考える防止施策を把握し、長野県にふさわしい今後の児童虐待防止施策を企画・立案するために調査を実施しました。

2 調査の方法

(1) 調査地域：長野県全域

(2) 調査対象：県政モニター 1,220人

(3) 調査方法：郵送又はインターネット

(4) 調査期間：平成25年4月3日（水）から4月15日（月）

3 回収結果

回収数（率） 851人（69.8%）

【回答方法別】

（上段 回答者数：中段 対象者数：下段 割合）

	全体回答率	（回答方法内訳）	
		郵送	インターネット
総数	851	611	240
	1220	774	446
	69.8%	78.9%	53.8%
公募	57	-	57
	102	-	102
	55.9%	-	55.9%
無作為	794	611	183
	1118	774	344
	71.0%	78.9%	53.2%

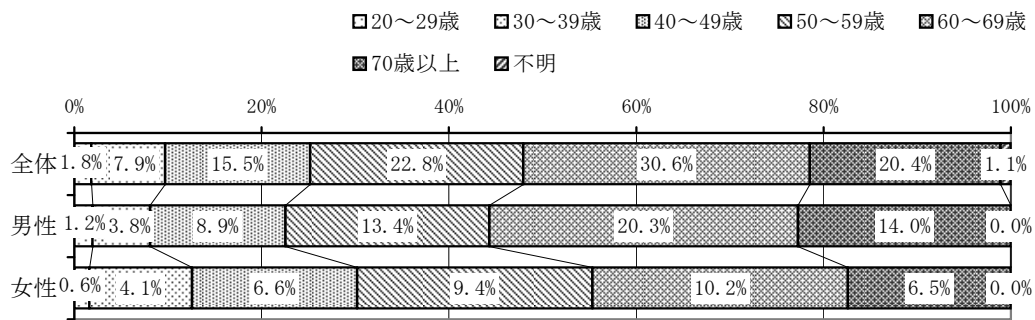
4 回答状況

【男女別・年代別】

（上段 回答者数：下段 割合）

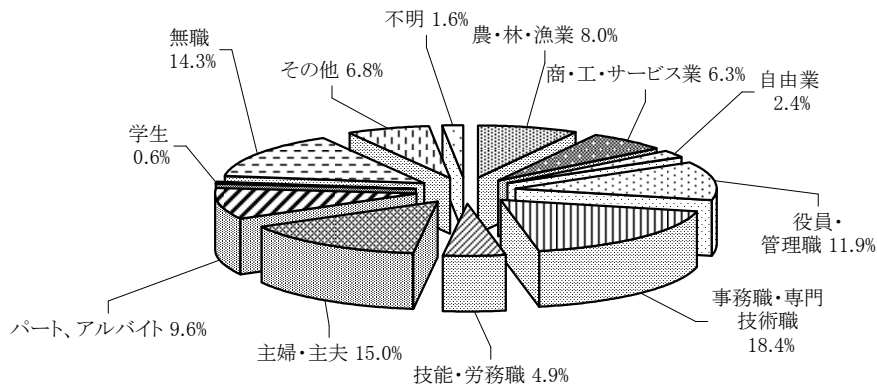
	総数	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	不明
総数	851	15	67	132	194	260	174	9
	100.0%	1.8%	7.9%	15.5%	22.8%	30.6%	20.4%	1.1%
男性	524	10	32	76	114	173	119	-
	61.6%	1.2%	3.8%	8.9%	13.4%	20.3%	14.0%	-
女性	318	5	35	56	80	87	55	-
	37.4%	0.6%	4.1%	6.6%	9.4%	10.2%	6.5%	-
不明	9	-	-	-	-	-	-	9
	1.1%	-	-	-	-	-	-	1.1%

※ 割合(%)はすべて、回答総数(n=851)に対する割合



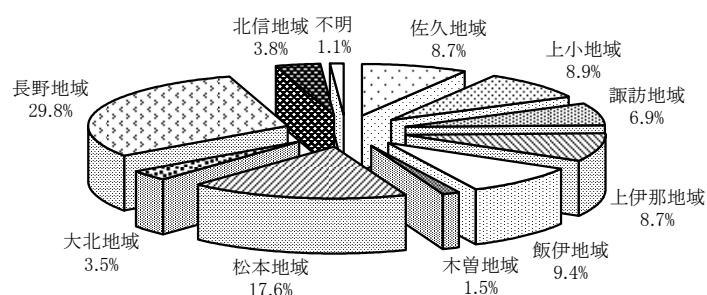
【職業別】

	県政モニター登録者数		回答者数		回答率
	人数	割合	人数	割合	
農・林・漁業	100	8.2%	68	8.0%	68.0%
商・工・サービス業	99	8.1%	54	6.3%	54.5%
自由業	24	2.0%	20	2.4%	83.3%
役員・管理職	129	10.6%	101	11.9%	78.3%
事務職・専門技術職	213	17.5%	157	18.4%	73.7%
技能・労務職	67	5.5%	42	4.9%	62.7%
主婦・主夫	172	14.1%	128	15.0%	74.4%
パート、アルバイト	115	9.4%	82	9.6%	71.3%
学生	18	1.5%	5	0.6%	27.8%
無職	187	15.3%	122	14.3%	65.2%
その他	89	7.3%	58	6.8%	65.2%
不明	7	0.6%	14	1.6%	-
合計	1,220	100.0%	851	100.0%	69.8%



【地域別】

	県政モニター 登録者数		回答者数		回答率
	人数	割合	人数	割合	
佐久地域	103	8.4%	74	8.7%	71.8%
上小地域	108	8.9%	76	8.9%	70.4%
諏訪地域	92	7.5%	59	6.9%	64.1%
上伊那地域	114	9.3%	74	8.7%	64.9%
飯伊地域	112	9.2%	80	9.4%	71.4%
木曽地域	17	1.4%	13	1.5%	76.5%
松本地域	223	18.3%	150	17.6%	67.3%
大北地域	35	2.9%	30	3.5%	85.7%
長野地域	367	30.1%	254	29.8%	69.2%
北信地域	49	4.0%	32	3.8%	65.3%
不明	-	-	9	1.1%	-
合計	1,220	100.0%	851	100.0%	69.8%



5 その他

- (1) 調査結果の割合は、百分率で表記した。百分率の値は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表示している。したがって、割合の合計が100%とならない場合がある。なお、調査の設問には単数回答と複数回答があり、複数回答の場合には割合の合計が100%を上回ることがある。
- (2) 集計結果において、「無回答」とは、当該設問に対する回答（選択）が無いものを示す。
※回答方法が1択の設問に対して、複数選択されているなど、正常な回答として扱えないものも「無回答」とする。
- (3) 「Ⅱ結果の内容」中、設問の表記は、便宜上補足（選択肢の番号など）を加えている場合がある。また、設問の選択肢で文字数が多いものについては、本文や図表中で便宜上短く省略している場合がある。
- (4) 「4 回答状況」で「不明」とあるものは、アンケート回答の際に県政モニターID番号等の記入がなく、回答者の属性（性別、年代等）が不明なものを示している。

Ⅱ 結 果 の 内 容

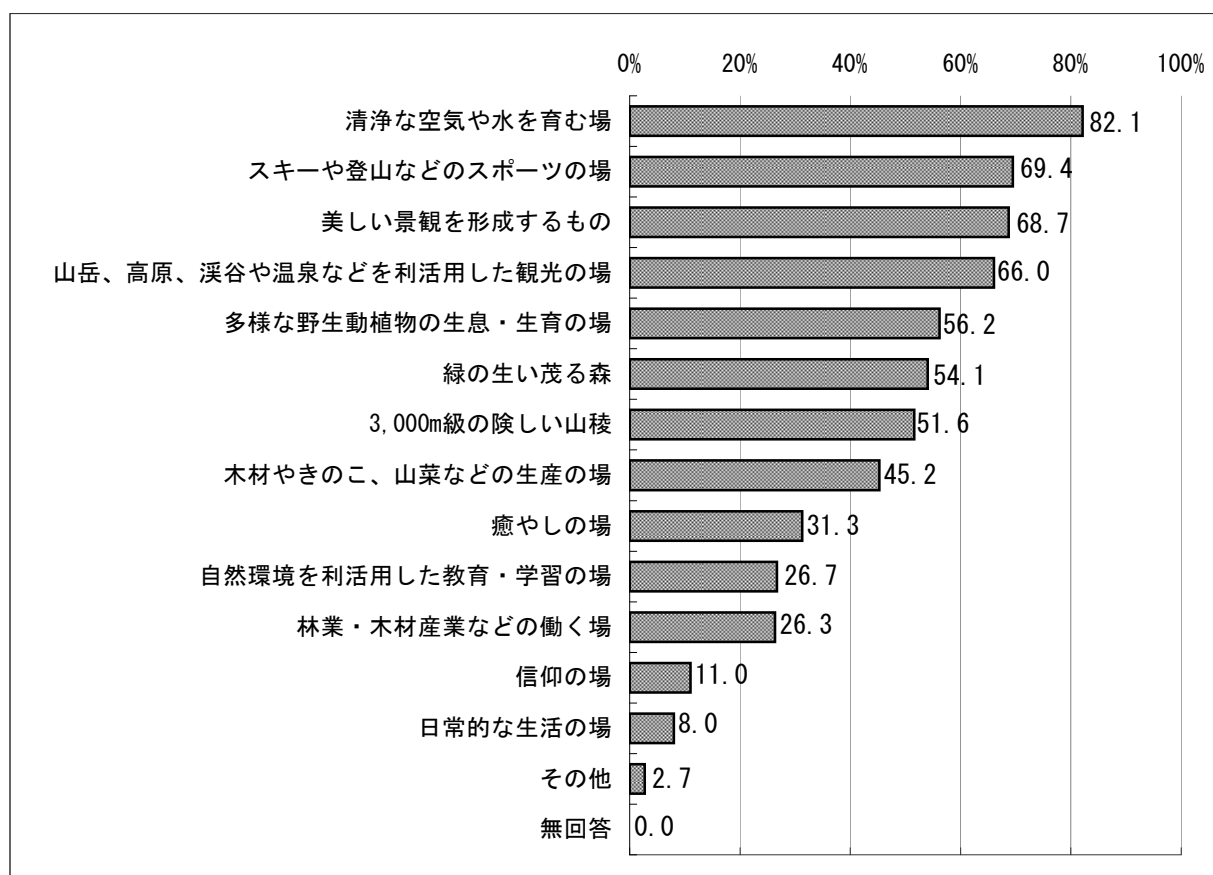
《長野県の「山」のイメージについて》

＜長野県の「山」のイメージ＞
「清浄な空気や水を育む場」が約8割

問1 あなたは、長野県の「山」と聞いた時、どのようなイメージを持っていますか。あてはまるものを選んでください（○はいくつでも）。

	n= 851	回答数 (人)	割合 (%)
清浄な空気や水を育む場		699	82.1
スキーや登山などのスポーツの場		591	69.4
美しい景観を形成するもの		585	68.7
山岳、高原、渓谷や温泉などを利活用した観光の場		562	66.0
多様な野生動植物の生息・生育の場		478	56.2
緑の生い茂る森		460	54.1
3,000m級の険しい山稜		439	51.6
木材やきのこ、山菜などの生産の場		385	45.2
癒やしの場		266	31.3
自然環境を利活用した教育・学習の場		227	26.7
林業・木材産業などの働く場		224	26.3
信仰の場		94	11.0
日常的な生活の場		68	8.0
その他		23	2.7
無回答		0	0.0

●「清浄な空気や水を育む場」が82.1%で最も高く、次いで「スキーや登山などのスポーツの場」(69.4%)、「美しい景観を形成するもの」(68.7%)となっている。



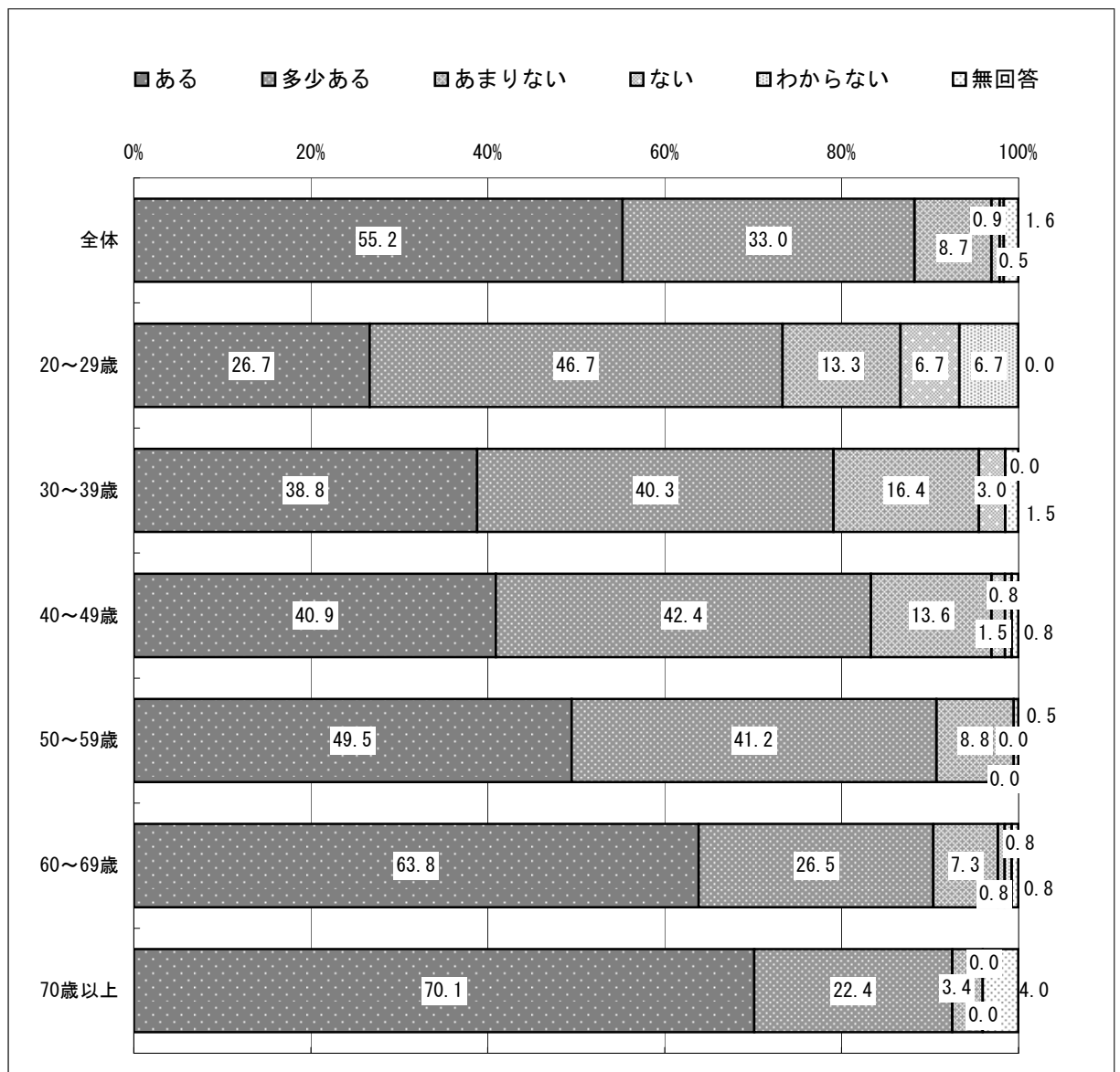
《長野県の「山」に対する興味について》

＜長野県の「山」に対する興味＞
「ある」と「多少ある」を合わせて約9割

問2 あなたは、長野県の「山」に興味がありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	n= 851	回答数 (人)	割合 (%)
ある		470	55.2
多少ある		281	33.0
あまりない		74	8.7
ない		8	0.9
わからない		4	0.5
無回答		14	1.6

●「ある」が55.2%と最も高く、次いで「多少ある」(33.0%)、「あまりない」(8.7%)となっている。



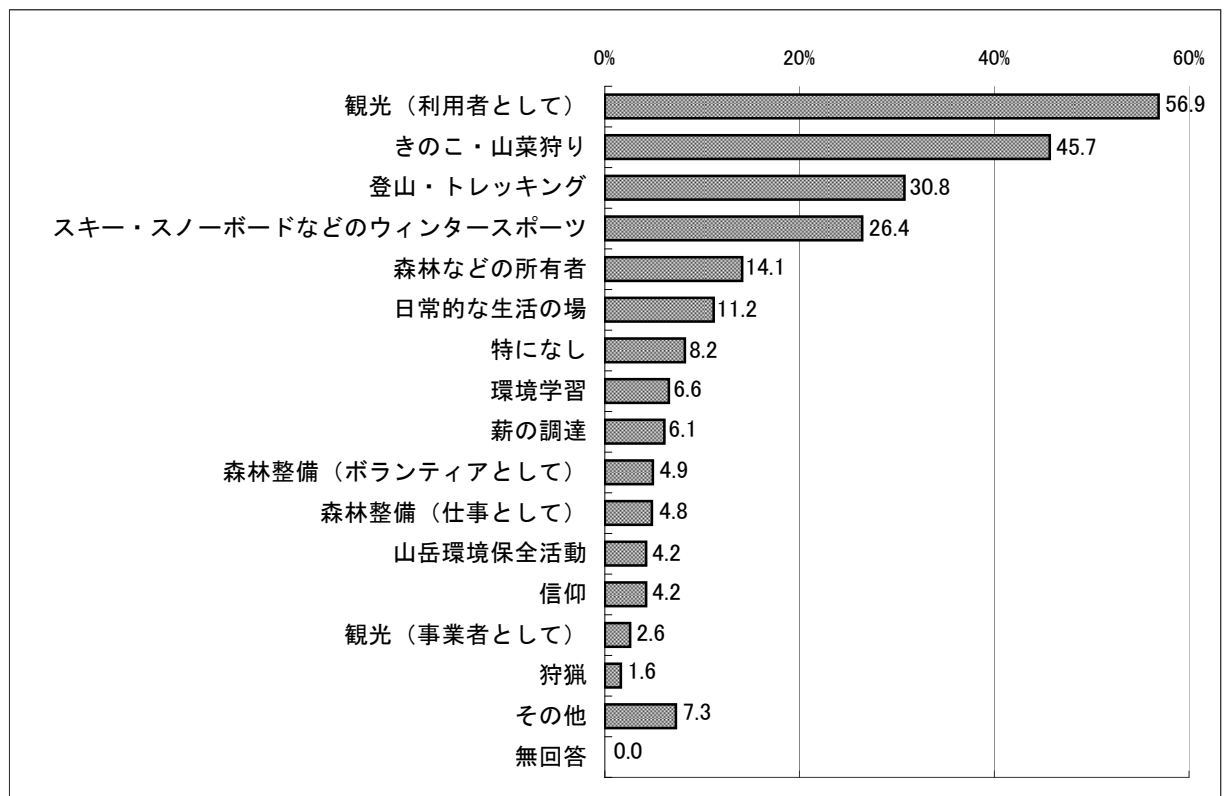
《長野県の「山」との関わり方について》

＜長野県の「山」との関わり方＞
観光(利用者として)が6割弱

問3 あなたは、日頃、長野県の「山」とどのような関わりを持たれていますか。
あてはまるものを選んでください(○はいくつでも)。

	n= 851	回答数 (人)	割合 (%)
観光(利用者として)		484	56.9
きのこ・山菜狩り		389	45.7
登山・トレッキング		262	30.8
スキー・スノーボードなどのウィンタースポーツ		225	26.4
森林などの所有者		120	14.1
日常的な生活の場		95	11.2
特になし		70	8.2
環境学習		56	6.6
薪の調達		52	6.1
森林整備(ボランティアとして)		42	4.9
森林整備(仕事として)		41	4.8
山岳環境保全活動		36	4.2
信仰		36	4.2
観光(事業者として)		22	2.6
狩猟		14	1.6
その他		62	7.3
無回答		0	0.0

●「山」との関わりは、「観光(利用者として)」が56.9%と最も高く、次いで「きのこ・山菜狩り」(45.7%)、「登山・トレッキング」(30.8%)となっている。



《長野県の「山」に関する課題について》

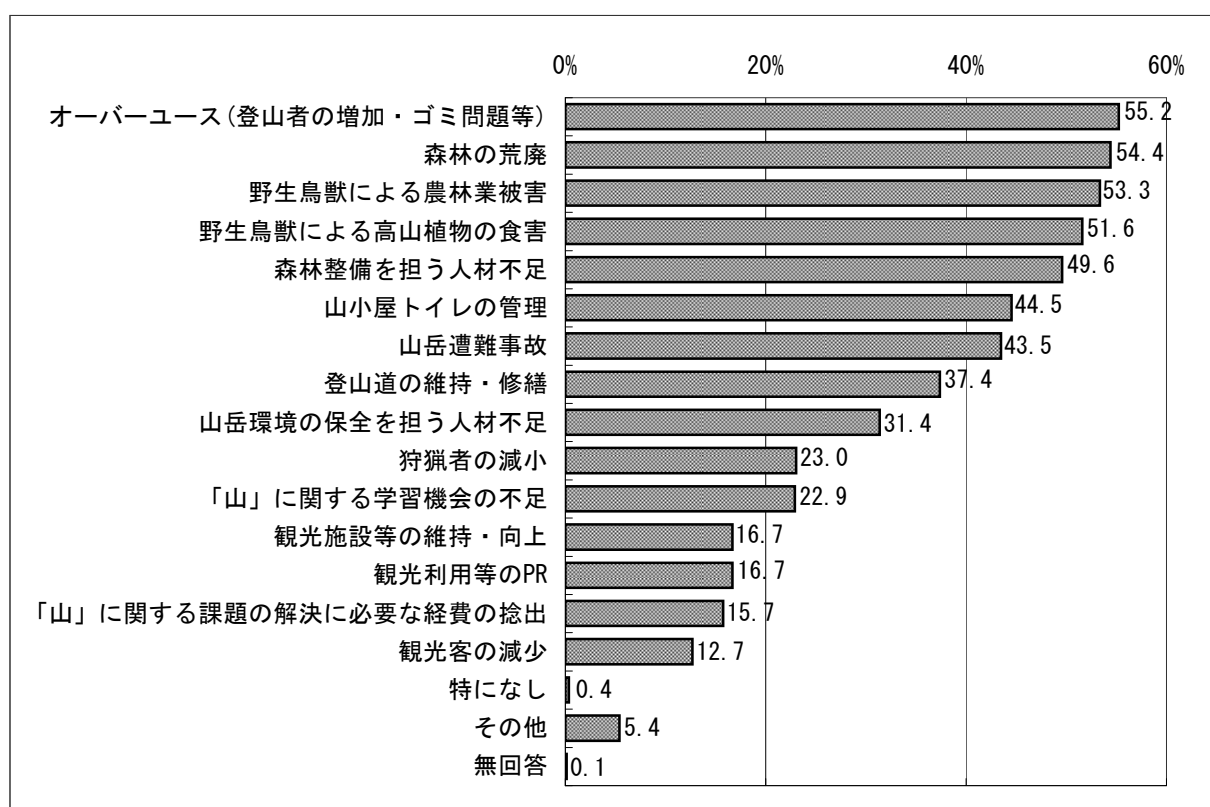
＜長野県の「山」に関する課題＞

「オーバーユース(登山者の増加に伴う植物への影響、ゴミ問題等)」が5割超

問4 あなたは、長野県の「山」に関して、どのような課題があるとお考えですか。
あてはまるものを選んでください(○はいくつでも)。

	n= 851	回答数 (人)	割合 (%)
オーバーユース(登山者の増加に伴う植物への影響、ゴミ問題等)		470	55.2
森林の荒廃		463	54.4
野生鳥獣による農林業被害		454	53.3
野生鳥獣による高山植物の食害		439	51.6
森林整備を担う人材不足		422	49.6
山小屋トイレの管理		379	44.5
山岳遭難事故		370	43.5
登山道の維持・修繕		318	37.4
山岳環境の保全を担う人材不足		267	31.4
狩猟者の減少		196	23.0
「山」に関する学習機会の不足		195	22.9
観光施設等の維持・向上		142	16.7
観光利用等のPR		142	16.7
「山」に関する課題の解決に必要な経費の捻出		134	15.7
観光客の減少		108	12.7
特になし		3	0.4
その他		46	5.4
無回答		1	0.1

● 「オーバーユース(登山者の増加に伴う植物への影響、ゴミ問題等)」が55.2%で最も高く、次いで「森林の荒廃」(54.4%)、「野生鳥獣による農林業被害」(53.3%)となっている。



《長野県の「山の日」（仮称）の制定について》

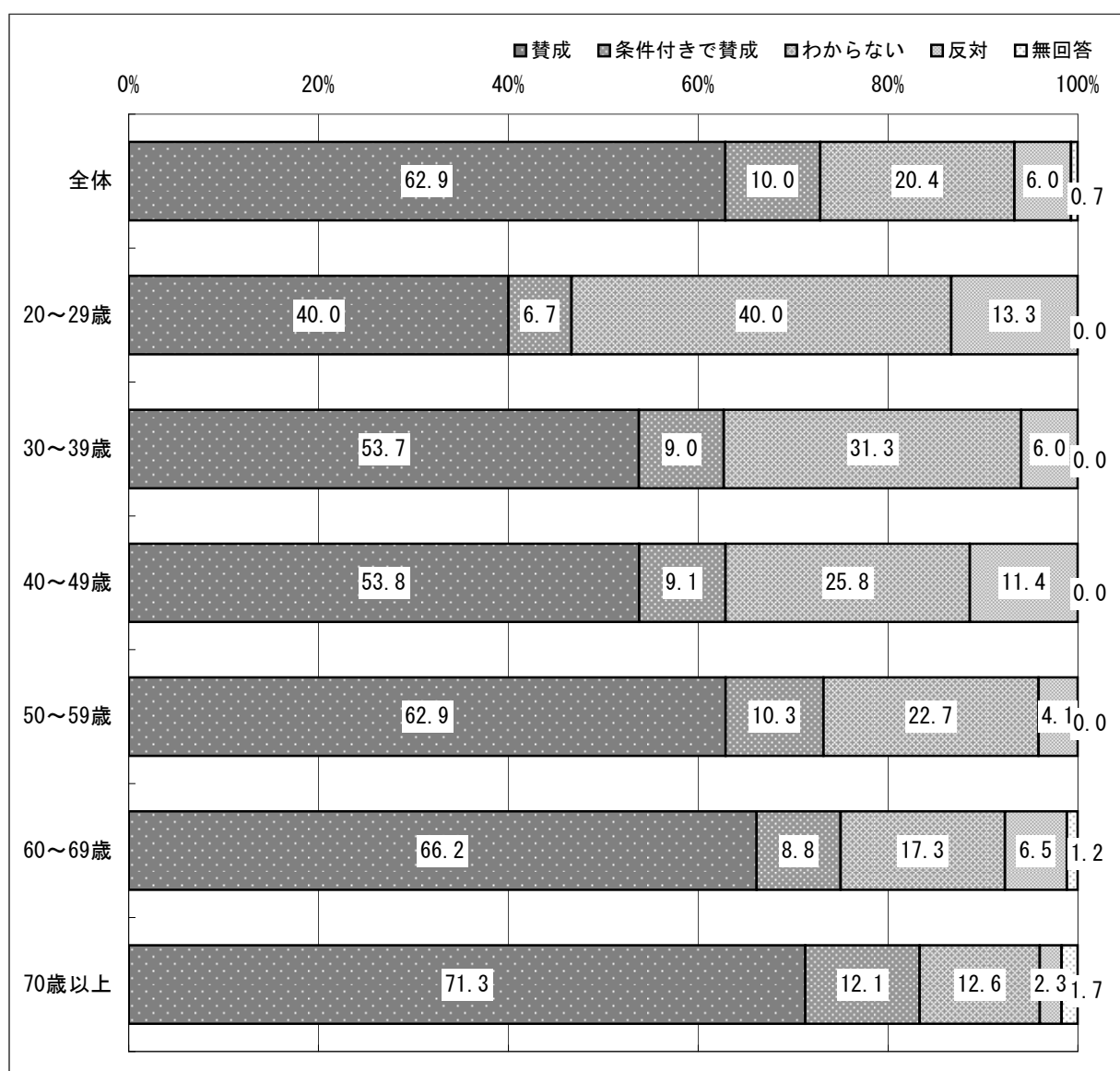
＜長野県の「山の日」(仮称)の制定＞
「賛成」と「条件付きで賛成」を合わせて7割超

県では、長野県の「山」を対象とした記念日（以降、「山の日」(仮称)と呼びます。）の制定に向け、現在検討を進めています。

問5 あなたは、長野県の「山の日」(仮称)を制定することに賛成ですか、反対ですか。
あてはまるものを1つ選んでください。

	n= 851	回答数 (人)	割合 (%)
賛成		535	62.9
条件付きで賛成		85	10.0
わからない		174	20.4
反対		51	6.0
無回答		6	0.7

● 「賛成」が62.9%と最も高く、次いで「わからない」(20.4%)、「条件付きで賛成」(10.0%)となっている。



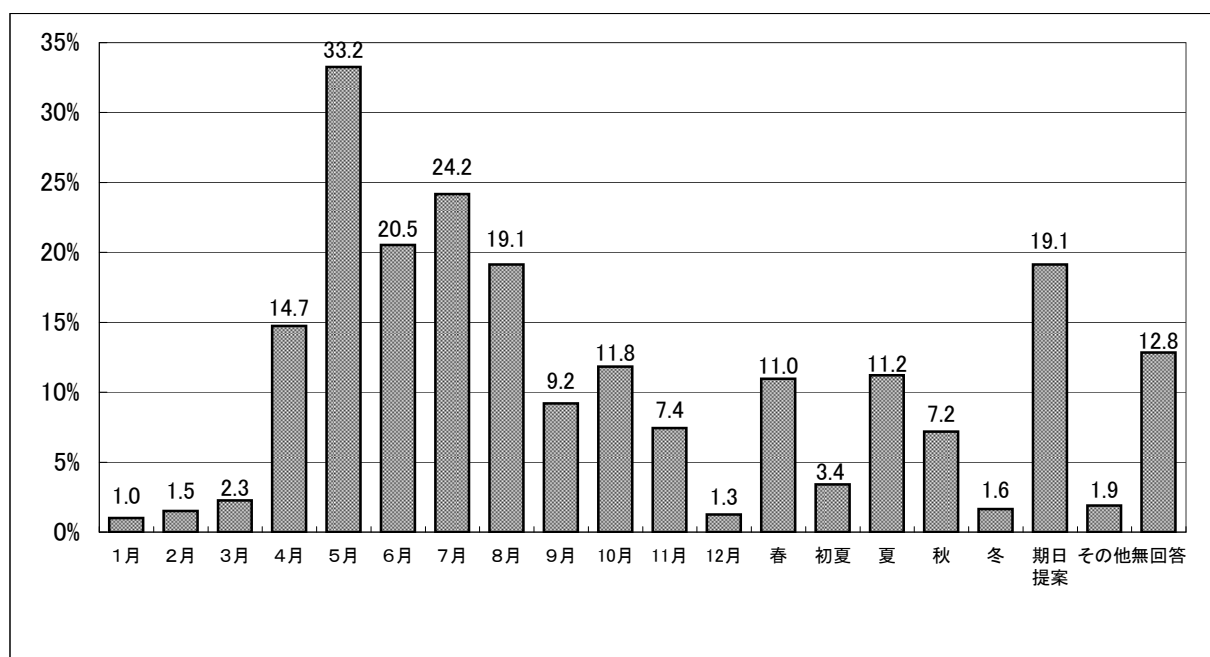
《長野県の「山の日」（仮称）の時期について》

＜長野県の「山の日」（仮称）の時期＞
「5月」が3割超で最も多く、次いで「7月」が2割超

問5で「賛成」、「条件付きで賛成」または「わからない」と答えた方に伺います。
問6 仮に、長野県の「山の日」（仮称）を制定するとした場合、いつ頃がよいとお考えですか。
またその理由をお書きください。

	n= 794	回答数 (人)	割合 (%)
1月		8	1.0
2月		12	1.5
3月		18	2.3
4月		117	14.7
5月		264	33.2
6月		163	20.5
7月		192	24.2
8月		152	19.1
9月		73	9.2
10月		94	11.8
11月		59	7.4
12月		10	1.3
春		87	11.0
初夏		27	3.4
夏		89	11.2
秋		57	7.2
冬		13	1.6
期日提案		152	19.1
その他		15	1.9
無回答		159	12.8

● 「5月」が33.2%で最も高く、次いで「7月」(24.2%)、「6月」(20.5%)となっている。



＜長野県の「山の日」(仮称)の時期(期日提案)＞

具体的な期日提案は154件あり、5月4日、5月10日、6月1日、7月1日、8月1日、8月8日など様々な候補が挙がっている

- 問5で「賛成」、「条件付きで賛成」または「わからない」と答えた方に伺います。
問6 仮に、長野県の「山の日」(仮称)を制定するとした場合、いつ頃がよいとお考えですか。
またその理由をお書きください(期日提案分)。

提案期日		件数	主な提案理由
7月	1日	13	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの「山開き」が行われる日 ・夏山シーズンの始まり ・1年の中心日(長野県の位置が日本のほぼ中央であり、山も中心的な象徴) ・緑の生い茂る季節
6月	1日	10	<ul style="list-style-type: none"> ・緑の芽吹き頃、新緑の美しい季節 ・植樹活動に最適 ・1年の真ん中の時期で野外活動が盛んになる頃
8月	1日	9	<ul style="list-style-type: none"> ・「八」の形 ・夏休み ・松本深志高等学校落雷遭難事故の日
5月	10日	8	<ul style="list-style-type: none"> ・若葉の綺麗な季節 ・過ごしやすい気候
5月	4日	7	・みどりの日と同趣旨
8月	8日	7	・「八」の形

[月別期日提案の状況]

提案期日		件数	主な理由
2月	1、7日	2	冬山登山の安全啓発、長野冬季五輪
3月	1、7、9日	3	「山の神」のお祭りの時期
4月	1、5、8、15、18、27、28、29、30、第二月曜、第四日曜日	20	春の始まり (「よ」(4)い「や」(8)まの語呂合わせ)
5月	1、2、4、5、6、10、15、20、25、第二日曜、第三日曜、第三月曜日	38	新緑 (ゴールデンウィークの祝日の連続化)
6月	1、10、15、第一日曜、第一月曜、第一土曜、第二日曜日	20	山開き、深緑の季節 (祝日のない月)
7月	1、10、15、20、21、25、第一日曜、第一月曜、第三日曜、第四日曜日	30	山開き、夏山登山のスタート 梅雨明け後の晴天日の多い季節
8月	1、3、4、6、7、8、10、13、20、30、第一日曜、第一月曜日	27	山岳観光シーズン最盛期、夏休みの帰省 「八」の漢字のイメージ
9月	20日	1	(理由なし)
10月	1、5、10、20、31、第一土曜、第一月曜日	11	秋の行楽(紅葉)シーズン
11月	7、第二日曜日	2	降雪前の季節

《長野県の「山の日」（仮称）の名称について》

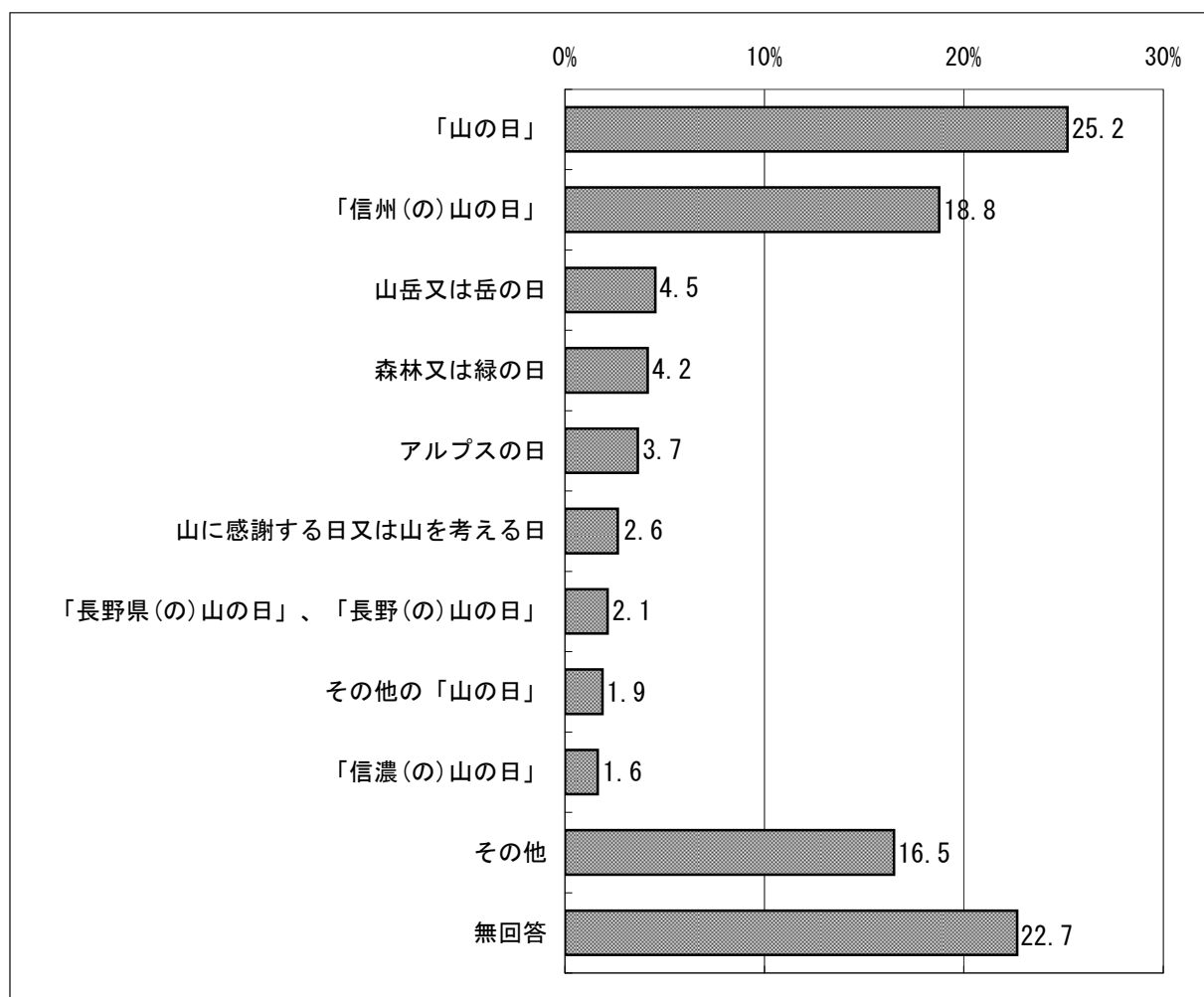
＜長野県の「山の日」（仮称）の名称＞

「山の日」が2割超で最も多く、次いで「信州（の）山の日」が約2割

問7 問5で「賛成」、「条件付きで賛成」または「わからない」と答えた方に伺います。
仮に、長野県の「山の日」（仮称）を制定するとした場合、どのような名称がよいとお考えですか。

	n= 794	回答数 (人)	割合 (%)
「山の日」		200	25.2
「信州（の）山の日」		149	18.8
山岳又は岳の日（「山岳」又は「岳」の文字を含むもの）		36	4.5
森林又は緑の日（「森林」、「森」、「緑」の文字を含むもの）		33	4.2
アルプスの日（アルプスの文字を含むもの）		29	3.7
山に感謝する日又は山を考える日（「感謝」又は「考える」の文字を含むもの）		21	2.6
「長野県（の）山の日」、「長野（の）山の日」		17	2.1
その他の「山の日」		15	1.9
「信濃（の）山の日」		13	1.6
その他		131	16.5
無回答		237	22.7

● 「山の日」が25.2%で最も高く、次いで「信州（の）山の日」（18.8%）、「その他」（16.5%）となっている。



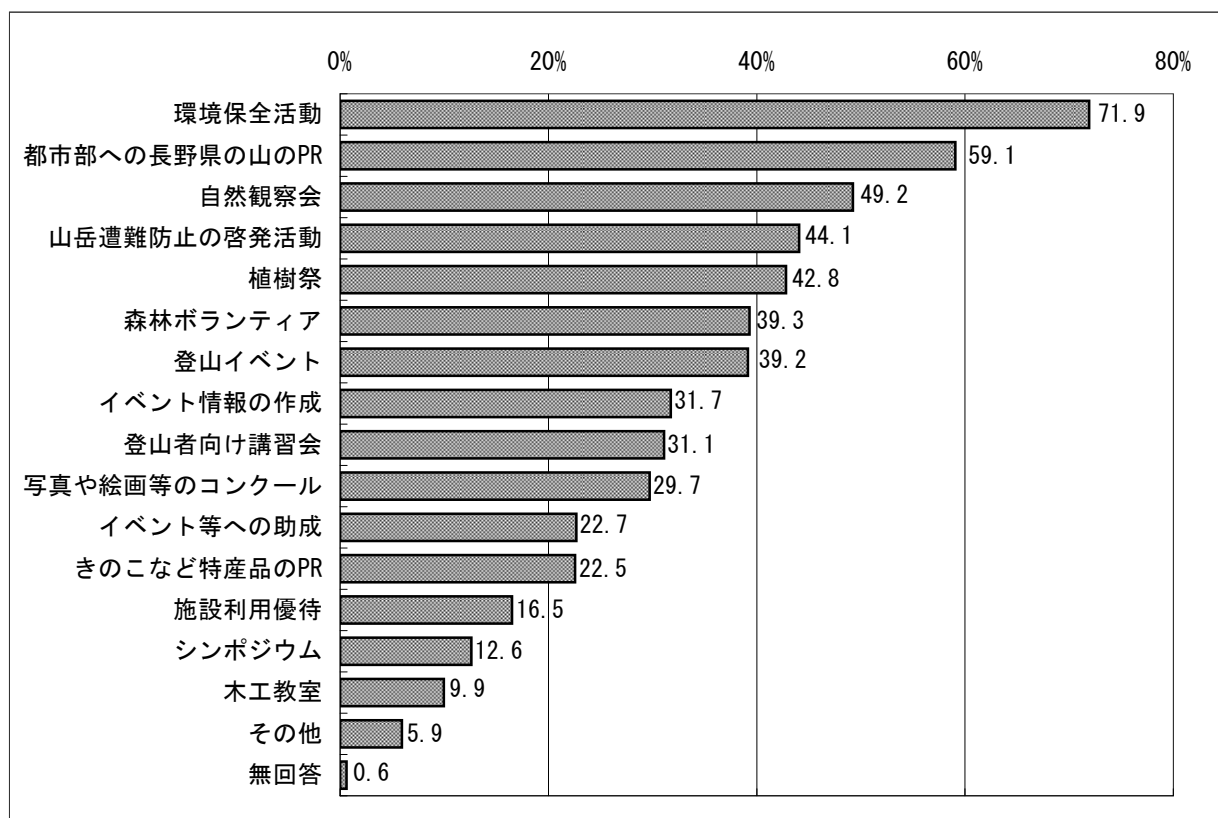
《長野県の「山の日」（仮称）に関する取組について》

＜長野県の「山の日」（仮称）に関する取組＞
「環境保全活動」が約7割

- 問8 問5で「賛成」、「条件付きで賛成」または「わからない」と答えた方に伺います。
仮に、長野県の「山の日」（仮称）を制定するとした場合、制定に向けて県はどのような取組を進めていくべきだと思いますか。
あてはまるものを選んでください(○はいくつでも)。

	n= 794	回答数 (人)	割合 (%)
環境保全活動		571	71.9
都市部への長野県の山のPR		469	59.1
自然観察会		391	49.2
山岳遭難防止の啓発活動		350	44.1
植樹祭		340	42.8
森林ボランティア		312	39.3
登山イベント		311	39.2
イベント情報の作成		252	31.7
登山者向け講習会		247	31.1
写真や絵画等のコンクール		236	29.7
イベント等への助成		180	22.7
きのこなど特産品のPR		179	22.5
施設利用優待		131	16.5
シンポジウム		100	12.6
木工教室		79	9.9
その他		47	5.9
無回答		5	0.6

● 「環境保全活動」が71.9%と最も高く、次いで「都市部への長野県の山のPR」(59.1%)、「自然観察会」(49.2%)となっている。



《子育ての負担・悩みについて》

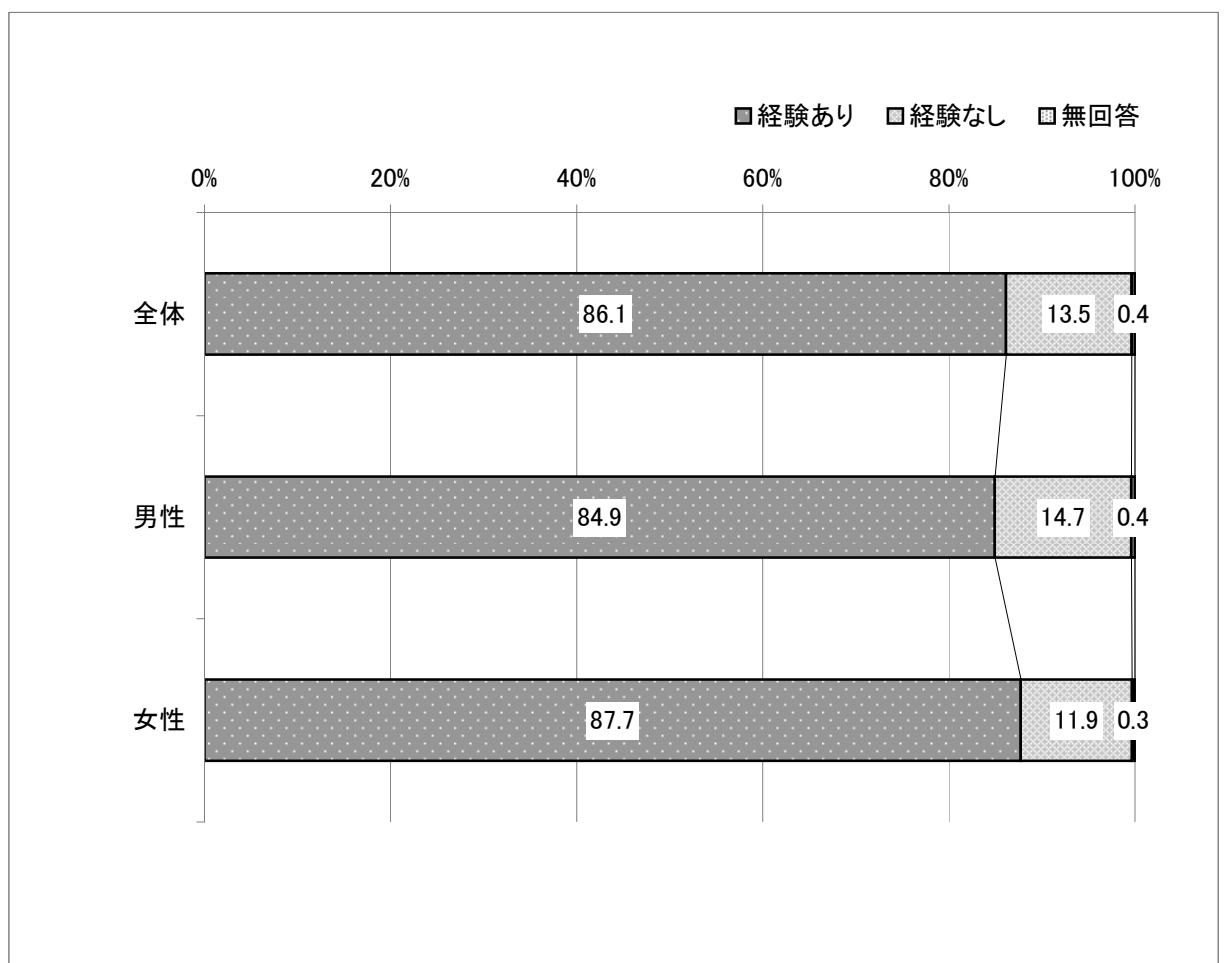
＜家庭での子育ての経験＞
家庭での子育ての「経験あり」が9割弱

問9 あなたは、家庭での子育ての経験がありますか。(○は1つ)

	n= 851	回答数 (人)	割合 (%)
経験あり		733	86.1
経験なし		115	13.5
無回答		3	0.4

●家庭での子育てについて「経験あり」が86.1%となり、「経験なし」が13.5%となっている。

【男女別】



＜子育てを負担に感じるとき、子育てに悩むとき＞
「仕事や生活などが大変で、気持ちに余裕がないとき」が約5割

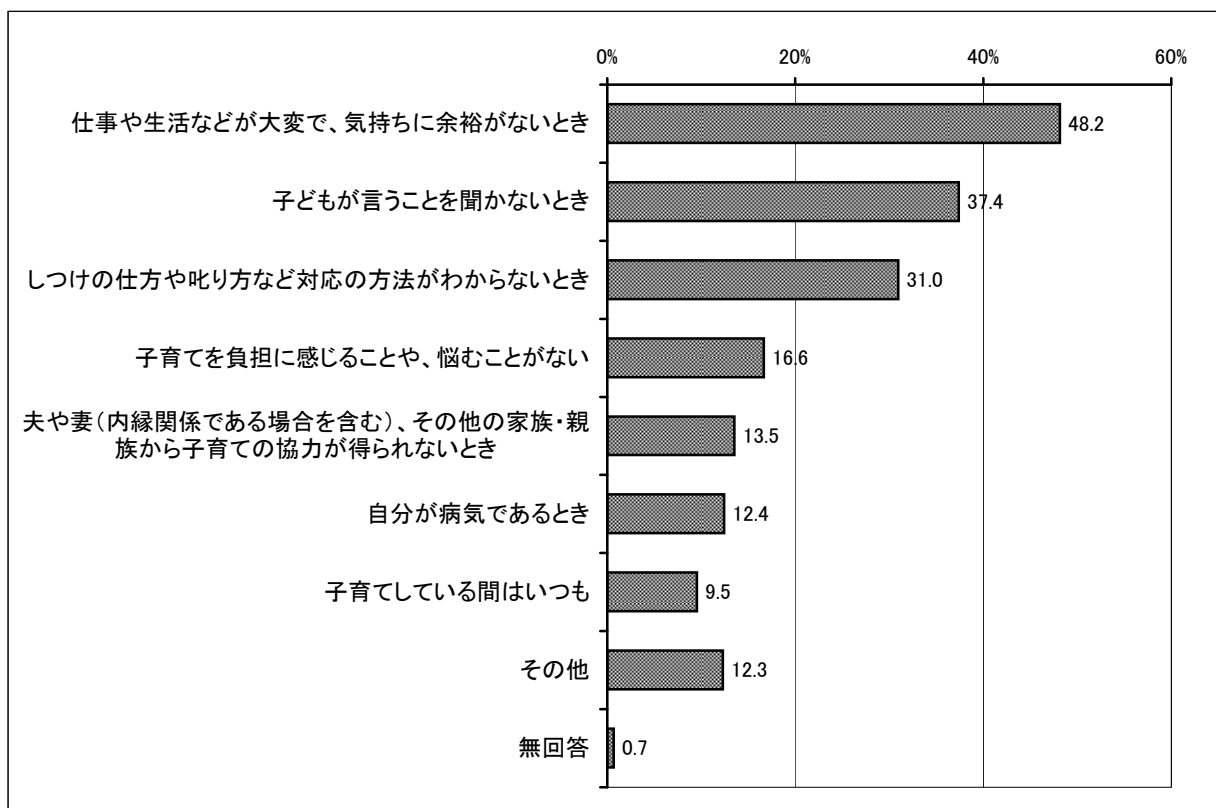
問10 問9で、「経験あり」と答えた方にお伺いします。

あなたが、子育てを負担に感じる(感じた)、または子育てに悩む(悩んだ)ときはどのような場合ですか。あてはまる場合をすべて選んでください。

(○はいくつでも。ただし、「子育てを負担に感じることや、悩むことがない」を選んだ場合は、他の項目は選ばないでください。)

	n= 733	回答数 (人)	割合 (%)
仕事や生活などが大変で、気持ちに余裕がない(なかった)とき		353	48.2
子どもが言うことを聞かない(聞かなかった)とき		274	37.4
しつけの仕方や叱り方など対応の方法がわからない(わからなかった)とき		227	31.0
子育てを負担に感じる(感じた)ことや、悩む(悩んだ)ことがない		122	16.6
夫や妻(内縁関係である場合を含む)、その他の家族・親族から子育ての協力が得られない(得られなかった)とき		99	13.5
自分が病気である(であった)とき		91	12.4
子育てしている(していた)間はいつも		70	9.5
その他		90	12.3
無回答		5	0.7

●「仕事や生活などが大変で、気持ちに余裕がないとき」が48.2%で最も高く、次いで「子どもが言うことを聞かないとき」(37.4%)、「しつけの仕方や叱り方など対応の方法がわからないとき」(31.0%)となっている。



＜子育ての負担や悩みの相談＞
「相談した」が4割超

問11 問10で、「子育てを負担に感じる(感じた)ことや、悩む(悩んだ)ことがない」と答えた方「以外」の方にお伺いします。

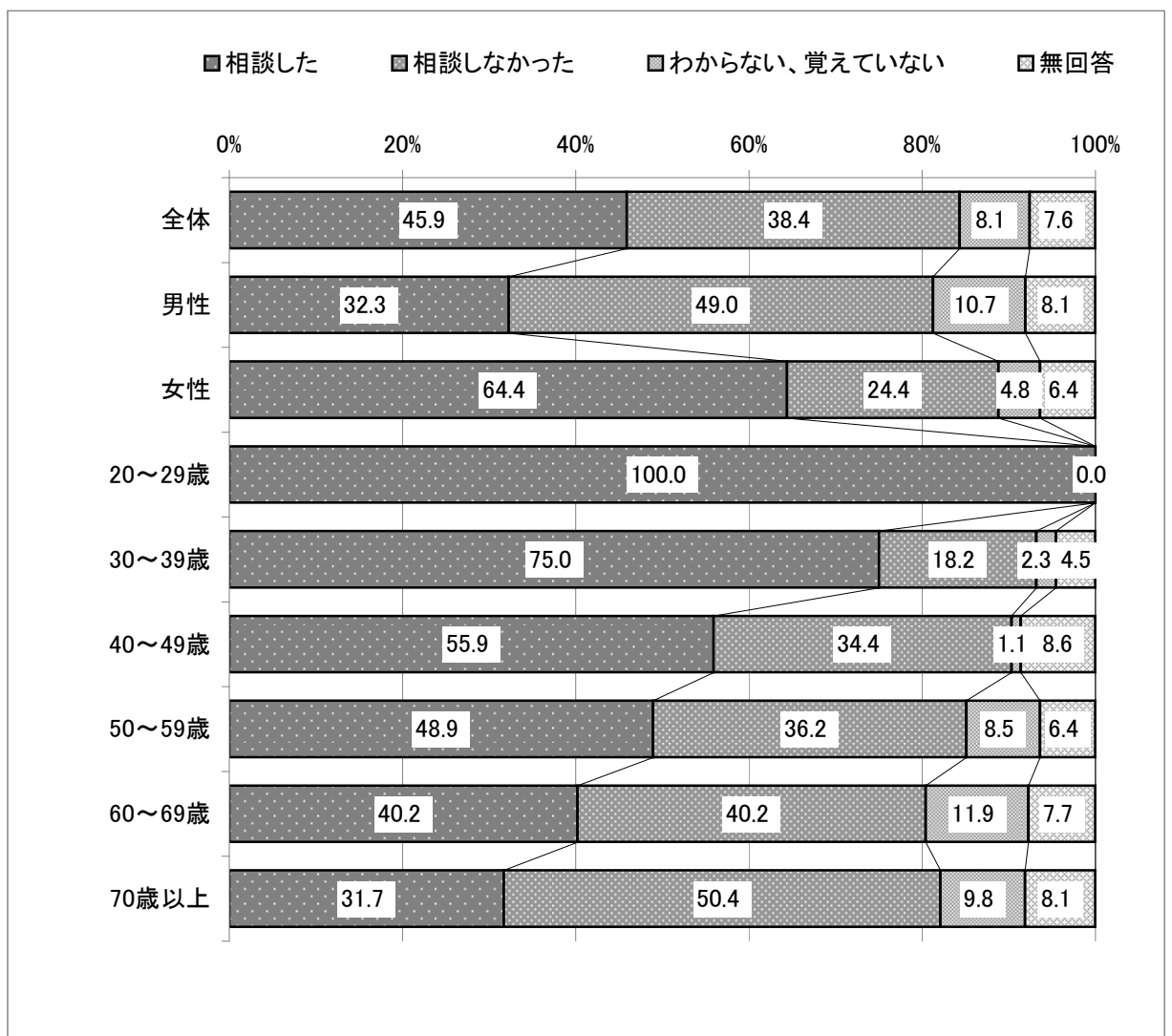
あなたは子育ての負担や悩みについて、だれ(どこ)かに相談しましたか。(○は1つ)

	n= 606	回答数 (人)	割合 (%)
相談した		278	45.9
相談しなかった		233	38.4
わからない、覚えていない		49	8.1
無回答		46	7.6

●子育ての負担や悩みについて「相談した」が45.9%で最も高く、次いで「相談しなかった」(38.4%)となっている。

●男女別・年代別では、男性よりも女性が、また、年代が若いほど相談した割合が高かった。

【男女別・年代別】

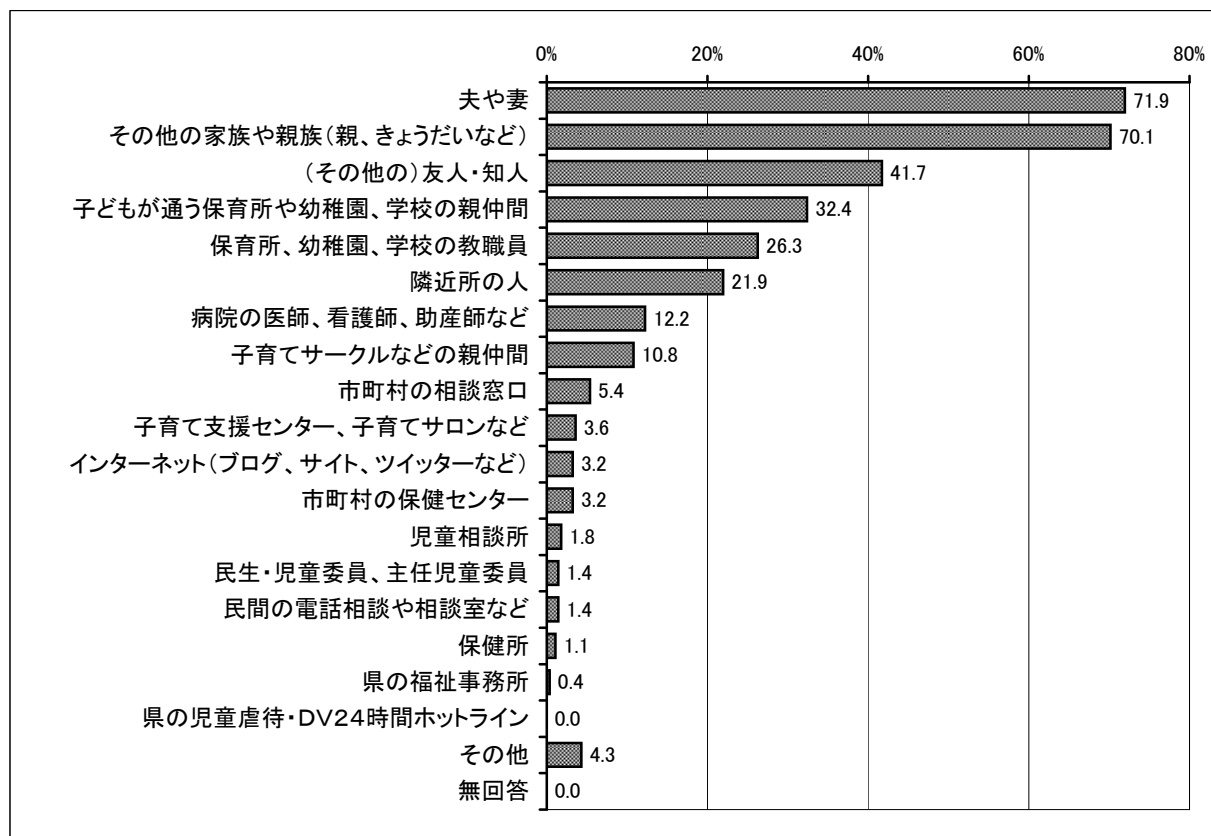


＜子育ての負担や悩みの相談先＞
「夫や妻」、「その他の家族や親族」がそれぞれ約7割

問12 問11で、「相談した」と答えた方にお伺いします。
だれ(どこ)に相談されましたか。あてはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)

	n= 278	回答数 (人)	割合 (%)
夫や妻(内縁関係である場合を含む)		200	71.9
その他の家族や親族(親、きょうだいなど)		195	70.1
(その他の)友人・知人		116	41.7
子どもが通う保育所や幼稚園、学校の親仲間		90	32.4
保育所、幼稚園、学校の教職員		73	26.3
隣近所の人		61	21.9
病院の医師、看護師、助産師など		34	12.2
子育てサークルなどの親仲間		30	10.8
市町村の相談窓口(福祉事務所、児童福祉担当課、子育て支援担当課など)		15	5.4
子育て支援センター、子育てサロン(親子のつどいの広場)など		10	3.6
インターネット(ブログ、サイト、ツイッターなど)		9	3.2
市町村の保健センター		9	3.2
児童相談所		5	1.8
民生・児童委員、主任児童委員		4	1.4
民間の電話相談や相談室など		4	1.4
保健所		3	1.1
県の福祉事務所		1	0.4
県の児童虐待・DV24時間ホットライン		0	0.0
その他		12	4.3
無回答		0	0.0

●「夫や妻」が71.9%と最も高く、次いで「その他の家族や親族(親、きょうだいなど)」(70.1%)、「(その他の)友人・知人」(41.7%)となっている。

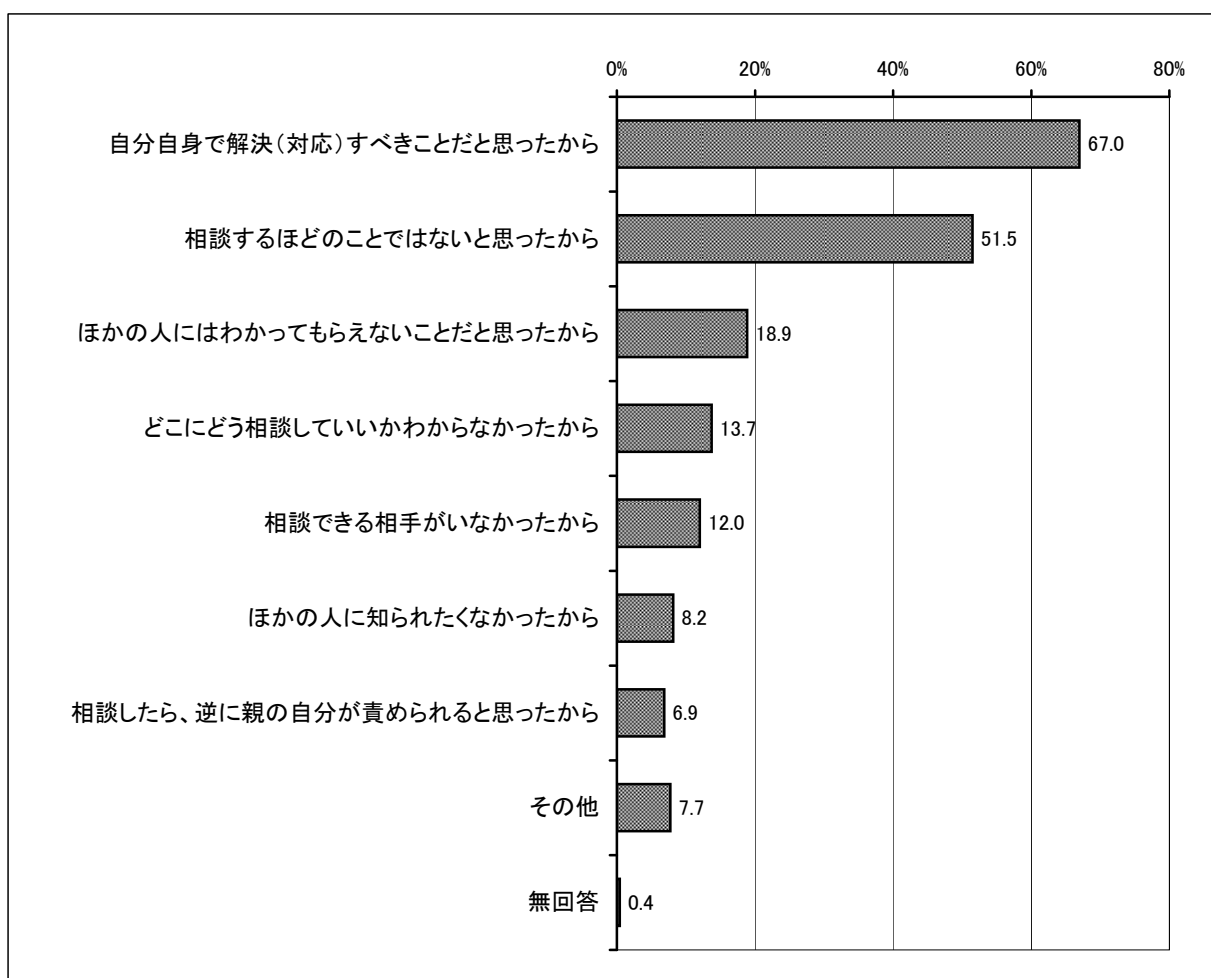


＜子育ての負担や悩みを相談しなかった理由＞
「自分自身で解決(対応)すべきことだと思ったから」が7割弱

問13 問11で、「相談しなかった」と答えた方にお伺いします。
相談しなかった理由として思いあたることをすべて選んでください。(〇はいくつでも)

	n= 233	回答数 (人)	割合 (%)
自分自身で解決(対応)すべきことだと思ったから		156	67.0
相談するほどのことではないと思ったから		120	51.5
ほかの人にはわかってもらえないことだと思ったから		44	18.9
どこにどう相談していいかわからなかったから		32	13.7
相談できる相手がいなかったから		28	12.0
ほかの人に知られたくなかったから		19	8.2
相談したら、逆に親の自分が責められると思ったから		16	6.9
その他		18	7.7
無回答		1	0.4

●「自分自身で解決(対応)すべきことだと思ったから」が67.0%で最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」(51.5%)、「ほかの人にはわかってもらえないことだと思ったから」(18.9%)となっている。



＜関係機関へ早期に相談してもらうために重要なこと＞
「どのような相談先があるのか周知すること」が4割超

問14 すべての方にお伺いします。

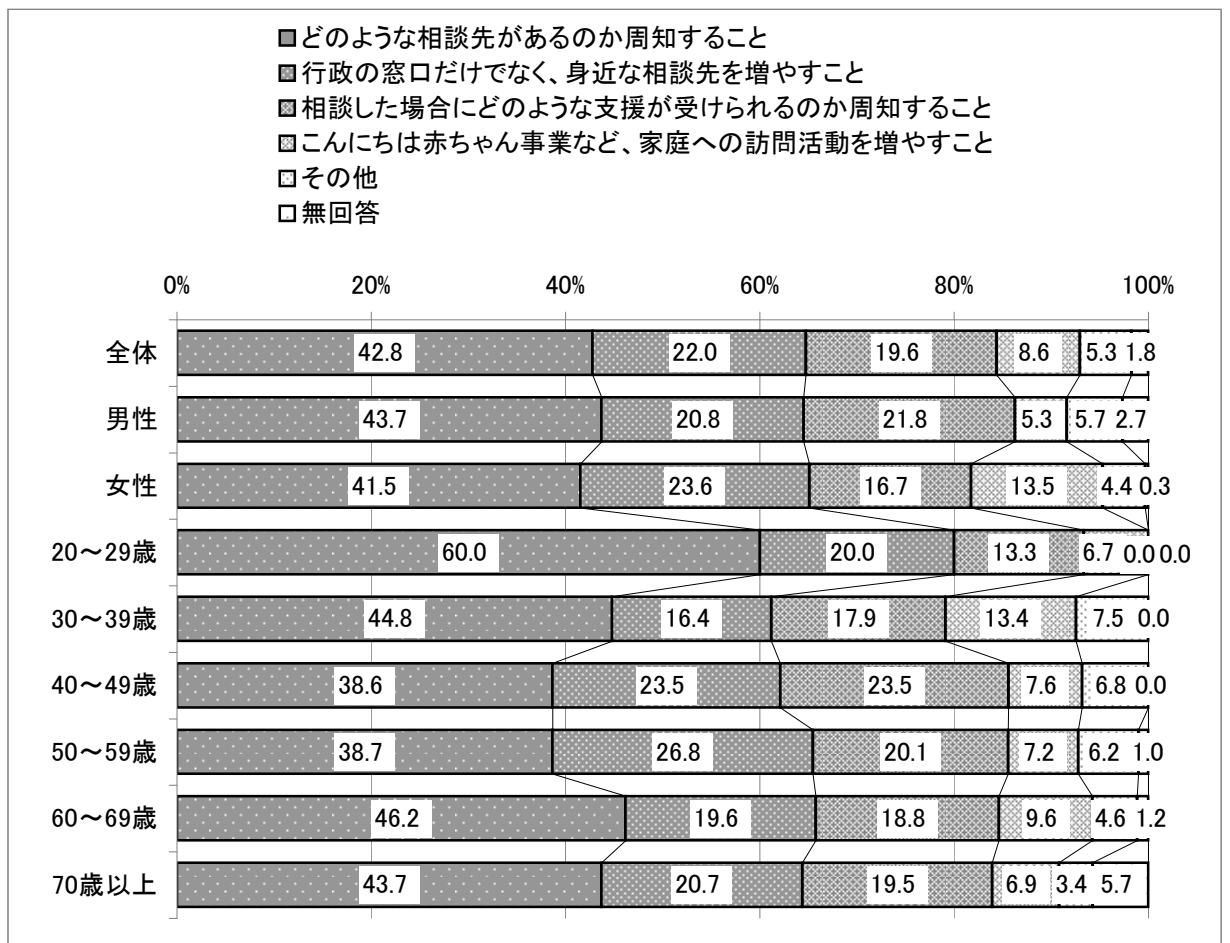
子育ての負担や悩みを抱えた親(保護者)に、関係機関(市町村の相談窓口、児童相談所など)へ早期に相談してもらうためには、次のうちどのようなことが最も重要だと思いますか。(〇は1つ)

※「こんにちは赤ちゃん事業」とは、保健師などが生後4カ月までの赤ちゃん(乳児)がいる家庭を訪問し、親子の心身状態や養育状況の把握、育児についての助言などを行う市町村の事業です。

	n= 851	回答数 (人)	割合 (%)
どのような相談先があるのか周知すること		364	42.8
行政の窓口だけでなく、身近な相談先(例:NPO法人、子育てサークルなど)を増やすこと		187	22.0
相談した場合にどのような支援が受けられるのか周知すること		167	19.6
こんにちは赤ちゃん事業(※)など、家庭への訪問活動を増やすこと		73	8.6
その他		45	5.3
無回答		15	1.8

●「どのような相談先があるのか周知すること」が42.8%と最も高く、次いで「行政の窓口だけでなく身近な相談先を増やすこと」(22.0%)、「相談した場合にどのような支援が受けられるのか周知すること」(19.6%)となっている。

【男女別・年代別】



《児童虐待防止について》

＜通告制度に関する知識＞

「通告・相談先を含めて、通告の義務があることを知っていた」が約4割

問15 「児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法）」では、児童虐待を受けたと思われる児童を発見した者は、市町村または児童相談所（もしくは福祉事務所）に通告（相談）しなければならないと、通告の義務が規定されています。

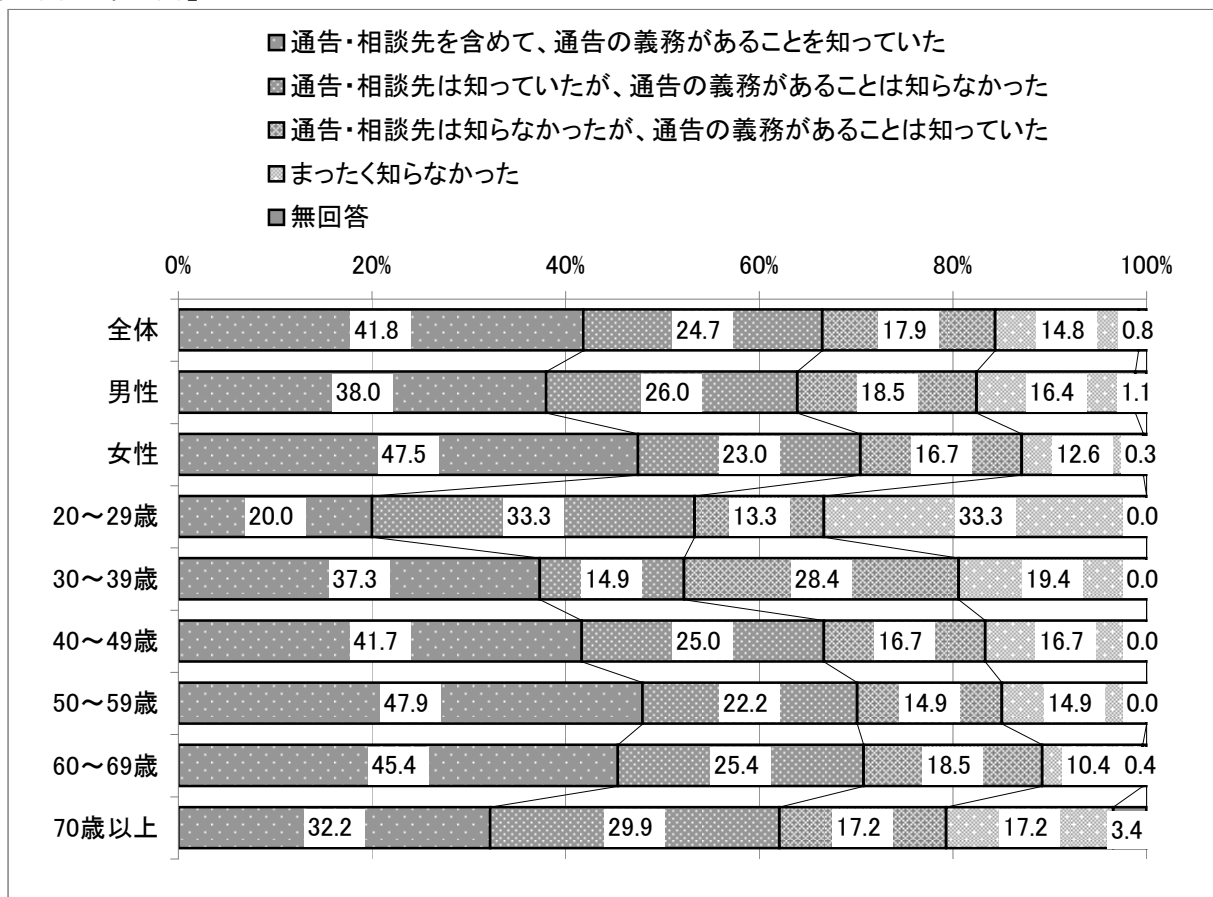
あなたはこのことを知っていましたか。（○は1つ）

	n= 851	回答数 (人)	割合 (%)
通告・相談先を含めて、通告の義務があることを知っていた		356	41.8
通告・相談先は知っていたが、通告の義務があることは知らなかった		210	24.7
通告・相談先は知らなかったが、通告の義務があることは知っていた		152	17.9
まったく知らなかった		126	14.8
無回答		7	0.8

●「通告・相談先を含めて、通告の義務があることを知っていた」が41.8%で最も高く、次いで「通告・相談先は知っていたが、通告の義務があることは知らなかった」(24.7%)、「通告・相談先は知らなかったが、通告の義務があることは知っていた」(17.9%)となっている。

●男女別・年代別では、男性よりも女性のほうが、また、他の年代と比べ50代・60代の人を知っている割合が高かった。

【男女別・年代別】



＜通告するときの不安＞

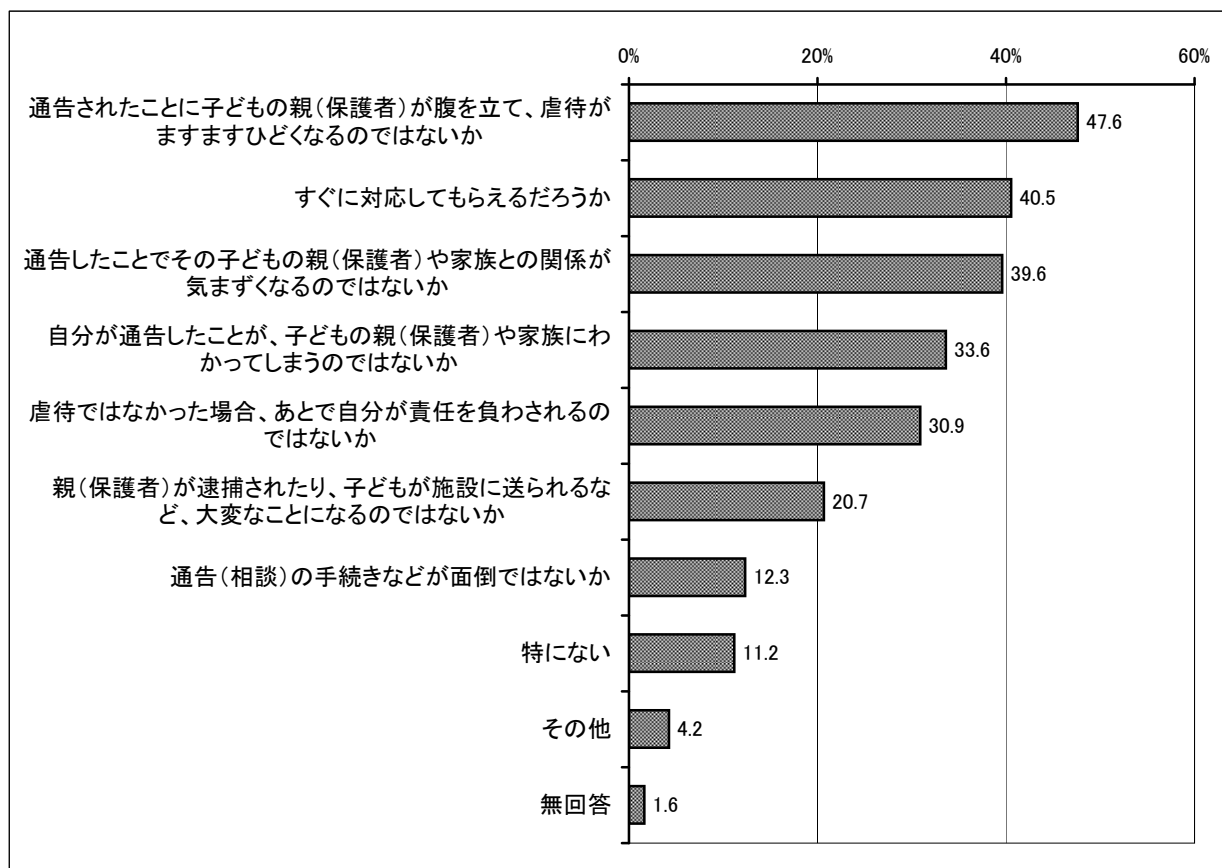
「通告されたことに子どもの親(保護者)が腹を立て、虐待がますますひどくなるのではないか」が約5割

問16 もし、あなたが児童虐待を受けたと思われる児童を発見して通告(相談)するときに、不安に思うことをすべて選んでください。

(○はいくつでも。ただし、「特にない」を選んだ場合は、他の項目は選ばないでください。)

	n= 851	回答数 (人)	割合 (%)
通告されたことに子どもの親(保護者)が腹を立て、虐待がますますひどくなるのではないか		405	47.6
すぐに対応してもらえるだろうか		345	40.5
通告したことでその子どもの親(保護者)や家族との関係が気まずくなるのではないか		337	39.6
自分が通告したことが、子どもの親(保護者)や家族にわかってしまうのではないか		286	33.6
虐待ではなかった場合、あとで自分が責任を負わされるのではないか		263	30.9
親(保護者)が逮捕されたり、子どもが施設に送られるなど、大変なことになるのではないか		176	20.7
通告(相談)の手続きなどが面倒ではないか		105	12.3
特にない		95	11.2
その他		36	4.2
無回答		14	1.6

●「通告されたことに子どもの親(保護者)が腹を立て、虐待がますますひどくなるのではないか」が47.6%で最も高く、次いで「すぐに対応してもらえるだろうか」(40.5%)、「通告したことでその子どもの親や家族との関係が気まずくなるのではないか」(39.6%)となっている。



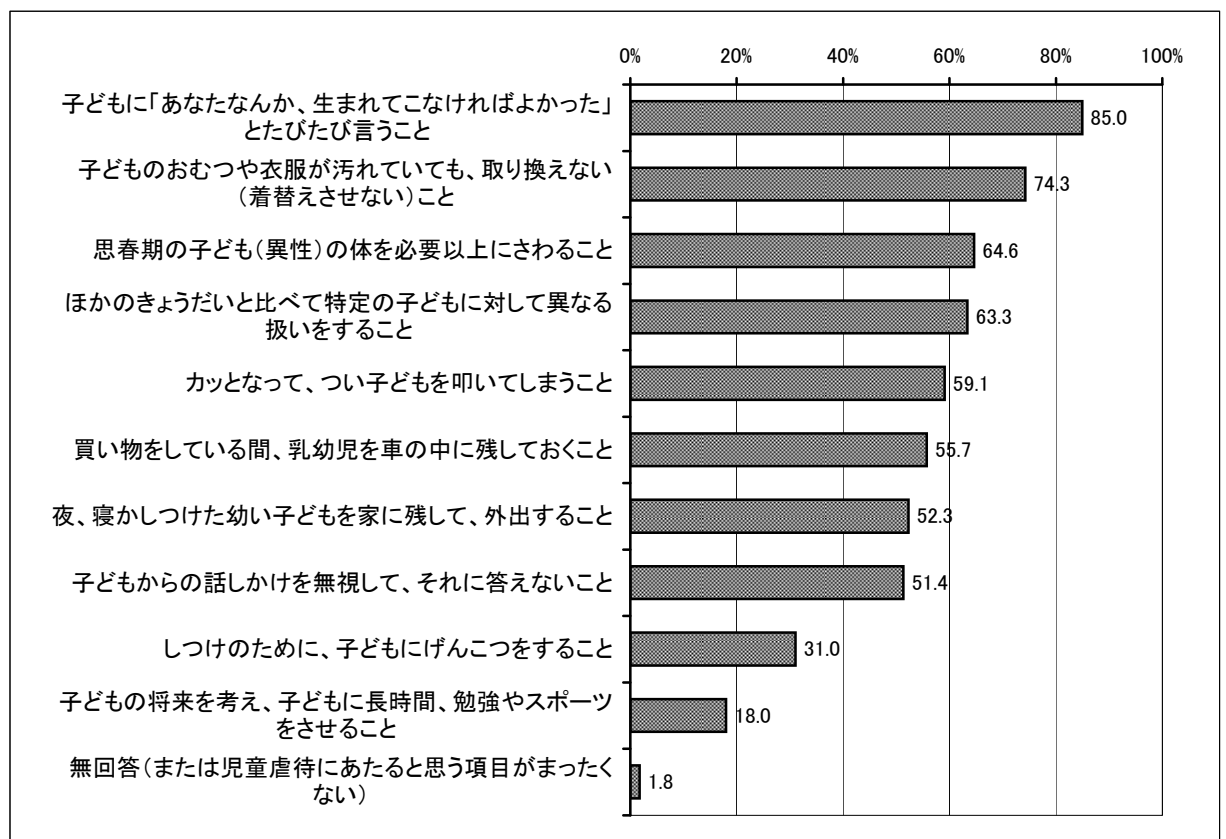
＜児童虐待にあたると思う行為＞

「子どもに『あなたなんか、生まれてこなければよかった』とたびたび言うこと」が8割超

問17 次にあげる親(保護者)の「行為(行為をしないことを含む)」で、あなたが児童虐待にあたると思うものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)

	n= 851	回答数 (人)	割合 (%)
子どもに「あなたなんか、生まれてこなければよかった」とたびたび言うこと		723	85.0
子どものおむつや衣服が汚れていても、取り換えない(着替えさせない)こと		632	74.3
思春期の子ども(異性)の体を必要以上にさわること		550	64.6
ほかのきょうだいと比べて特定の子どもに対して異なる扱いをすること		539	63.3
カッとなって、つい子どもを叩いてしまうこと		503	59.1
買い物をしている間、乳幼児を車の中に残しておくこと		474	55.7
夜、寝かしつけた幼い子どもを家に残して、外出すること		445	52.3
子どもからの話しかけを無視して、それに答えないこと		437	51.4
しつけのために、子どもにげんこつをすること		264	31.0
子どもの将来を考え、子どもに長時間、勉強やスポーツをさせること		153	18.0
無回答(または児童虐待にあたると思う項目がまったくない)		15	1.8

●「子どもに『あなたなんか、生まれてこなければよかった』とたびたび言うこと」が85.0%と最も高く、次いで「子どものおむつや衣服が汚れていても、取り換えないこと」(74.3%)、「思春期の子ども(異性)の体を必要以上にさわること」(64.6%)となっている。



＜虐待の早期把握のために重要なこと＞

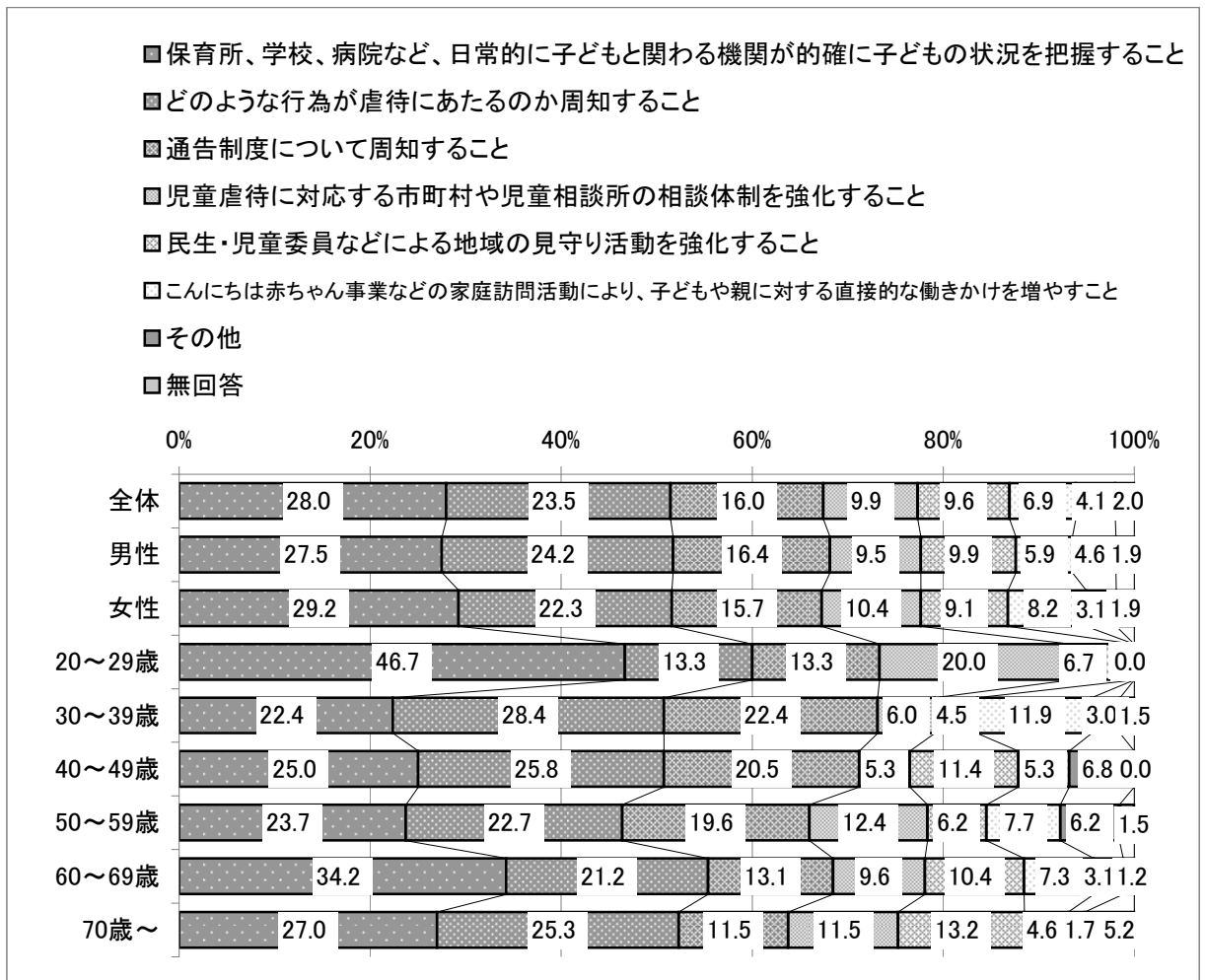
「保育所、学校、病院など、日常的に子どもと関わる機関が的確に子どもの状況を把握すること」が約3割

問18 虐待を受けたり、その可能性が疑われる子どもを早期に把握するためには、次のうちどのようなことが最も重要だと思いますか。(〇は1つ)

	n= 851	回答数 (人)	割合 (%)
保育所、学校、病院など、日常的に子どもと関わる機関が的確に子どもの状況を把握すること		238	28.0
どのような行為が虐待にあたるのか周知すること		200	23.5
通告制度について周知すること		136	16.0
児童虐待に対応する市町村や児童相談所の相談体制を強化すること		84	9.9
民生・児童委員などによる地域の見守り活動を強化すること		82	9.6
こんにちは赤ちゃん事業などの家庭訪問活動により、子どもや親に対する直接的な働きかけを増やすこと		59	6.9
その他		35	4.1
無回答		17	2.0

●「保育所、学校、病院など、日常的に子どもと関わる機関が的確に子どもの状況を把握すること」が28.0%で最も高く、次いで「どのような行為が虐待にあたるのか周知すること」(23.5%)、「通告制度について周知すること」(16.0%)となっている。

【男女別・年代別】



《 児童虐待防止に関する県の広報啓発について 》

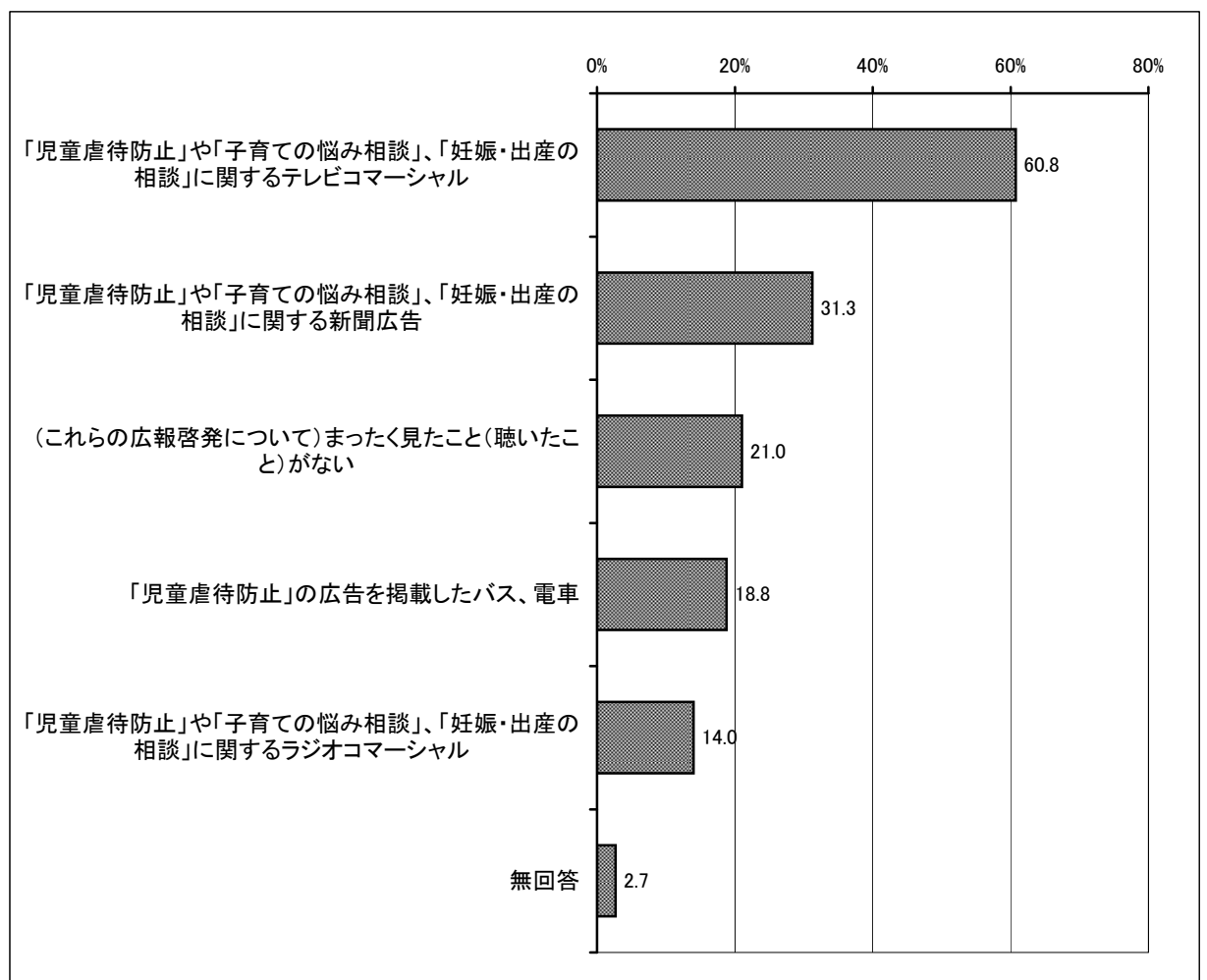
＜県の広報啓発の認知度＞

「テレビコマーシャルを見たことがある」が約6割

問19 今年3月まで県が実施した下記の広報啓発（児童虐待防止に関する広報啓発）について見たこと（聴いたこと）があるものに○をつけてください。（○はいくつでも）

	n= 851	回答数 (人)	割合 (%)
「児童虐待防止」や「子育ての悩み相談」、「妊娠・出産の相談」に関するテレビコマーシャル		517	60.8
「児童虐待防止」や「子育ての悩み相談」、「妊娠・出産の相談」に関する新聞広告		266	31.3
(これらの広報啓発について)まったく見たこと(聴いたこと)がない		179	21.0
「児童虐待防止」の広告を掲載したバス、電車		160	18.8
「児童虐待防止」や「子育ての悩み相談」、「妊娠・出産の相談」に関するラジオコマーシャル		119	14.0
無回答		23	2.7

●「テレビコマーシャル」が60.8%と最も高く、次いで「新聞広告」(31.3%)、「広報啓発をまったく見たこと(聴いたこと)がない」(21.0%)となっている。



＜広報啓発による意識・行動の変化＞
「変化があった」が4割超

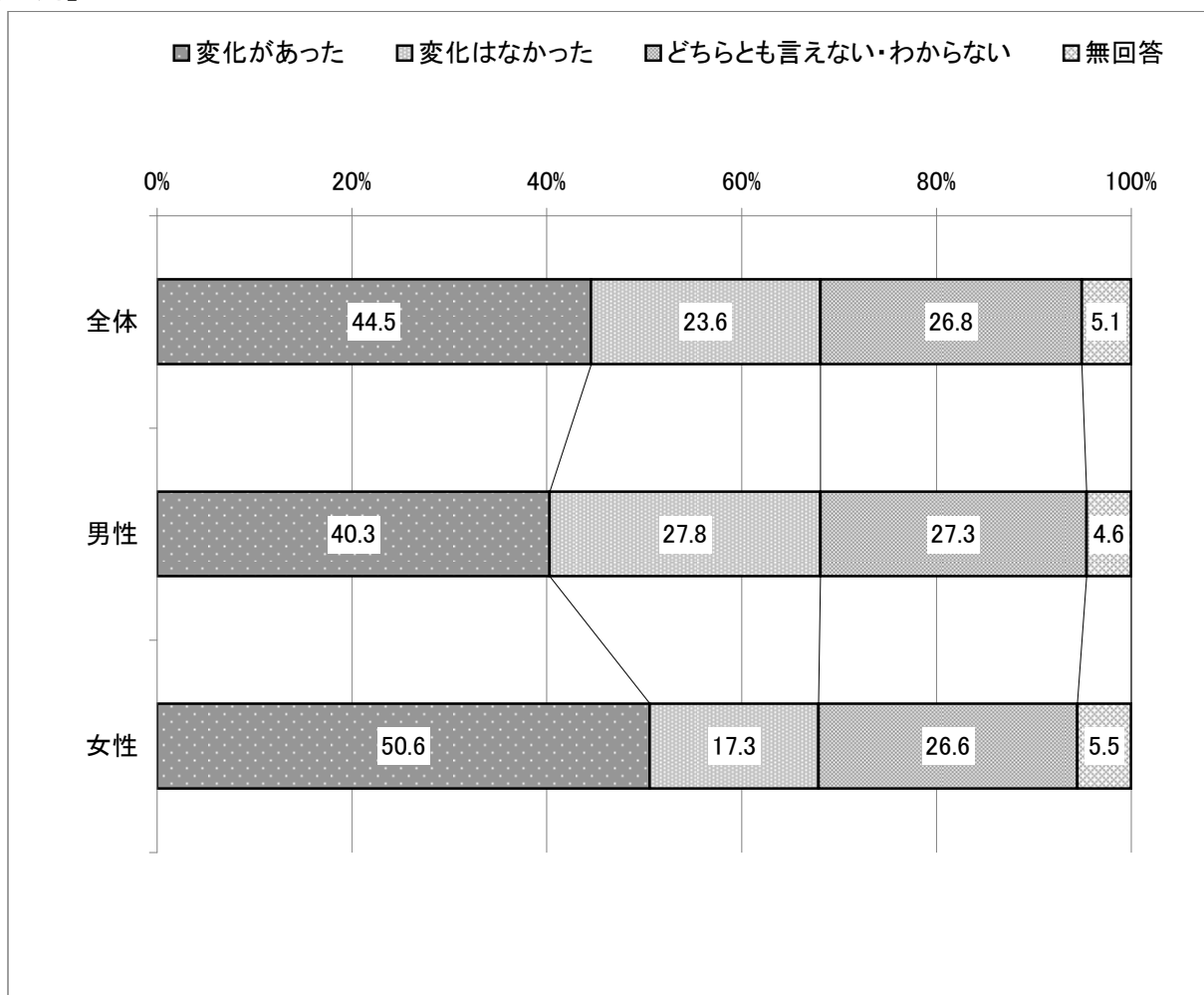
問20 問19で「広告を掲載したバス・電車、テレビCM、ラジオCM、新聞広告」のうち、1つでも「見たこと（聴いたこと）がある」と答えた方にお伺いします。
見た（聴いた）ことで、「児童虐待」や「子育て」、「妊娠・出産」に関して、あなたの意識や行動に何か変化はありましたか。（○は1つ）

	n= 649	回答数 (人)	割合 (%)
変化があった		289	44.5
変化はなかった		153	23.6
どちらとも言えない・わからない		174	26.8
無回答		33	5.1

● 広報啓発を1つでも「見たこと（聴いたこと）がある」人のうち、意識・行動に「変化があった」が44.5%と最も高い。

● 男性に比べ女性のほうが「変化があった」と回答した人の割合が高かった。

【男女別】



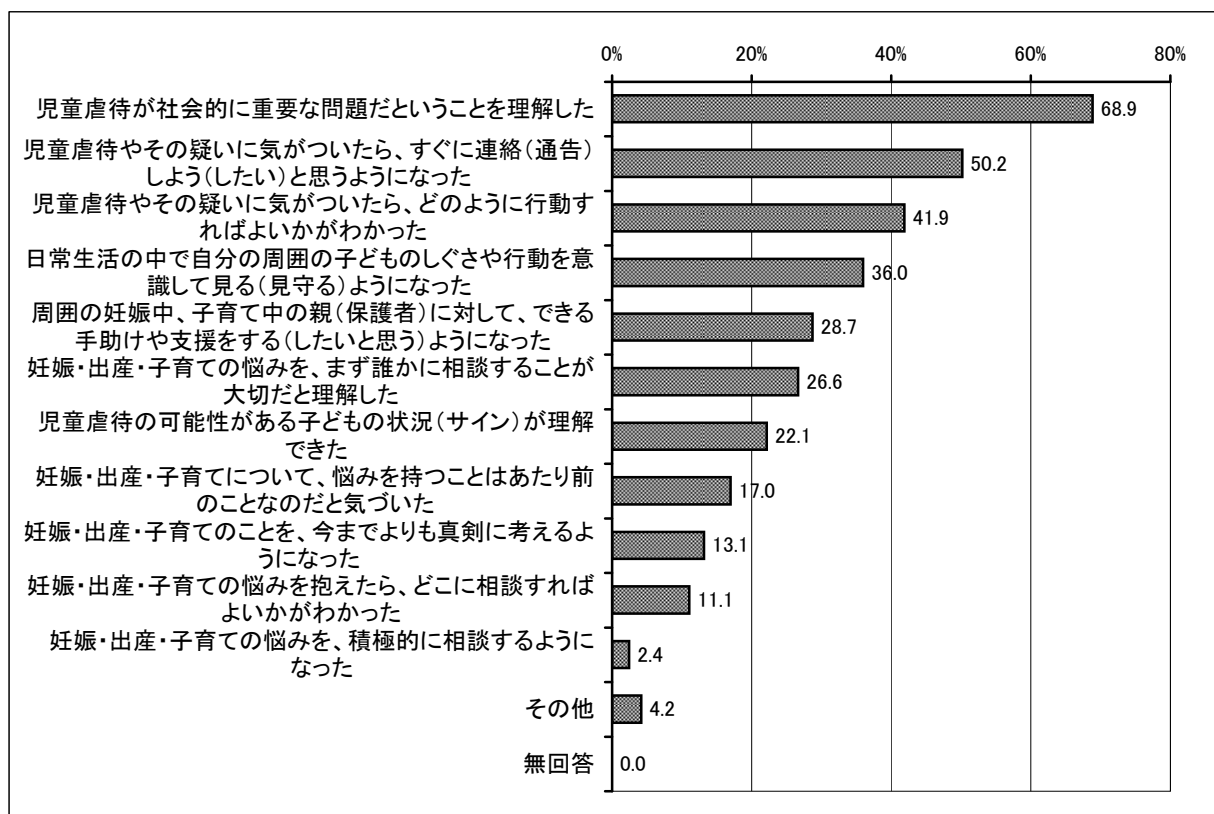
＜意識・行動の変化の内容＞

「児童虐待が社会的に重要な問題だということを理解した」が約7割

- 問21 問20で、「変化があった」と答えた方にお伺いします。
その意識や行動の変化とはどのようなものですか。あてはまるものをすべて選んでください。
(○はいくつでも)

	回答数 (人)	割合 (%)
n= 289		
児童虐待が社会的に重要な問題だということを理解した	199	68.9
児童虐待やその疑いに気がついたら、すぐに連絡(通告)しよう(したい)と思うようになった	145	50.2
児童虐待やその疑いに気がついたら、どのように行動すればよいかがわかった	121	41.9
日常生活の中で自分の周囲の子どものしぐさや行動を意識して見る(見守る)ようになった	104	36.0
周囲の妊娠中、子育て中の親(保護者)に対して、できる手助けや支援をする(したいと思う)ようになった	83	28.7
妊娠・出産・子育ての悩みを、まず誰かに相談することが大切だと理解した	77	26.6
児童虐待の可能性のある子どもの状況(サイン)が理解できた	64	22.1
妊娠・出産・子育てについて、悩みを持つことはあたり前のことなのだと気づいた	49	17.0
妊娠・出産・子育てのことを、今までよりも真剣に考えるようになった	38	13.1
妊娠・出産・子育ての悩みを抱えたら、どこに相談すればよいかわかった	32	11.1
妊娠・出産・子育ての悩みを、積極的に相談するようになった (妊娠・出産・子育ての悩みを抱えたら、積極的に相談したいと思うようになった)	7	2.4
その他	12	4.2
無回答	0	0.0

●「児童虐待が社会的に重要な問題だということを理解した」が68.9%で最も高く、次いで「児童虐待やその疑いに気がついたら、すぐに連絡(通告)しよう(したい)と思うようになった」(50.2%)、「児童虐待やその疑いに気がついたら、どのように行動すればよいかわかった」(41.9%)となっている。



《児童虐待の原因と解決策について》

＜児童虐待の原因と解決策についての考え＞

原因：社会環境や経済環境の変化による負担の増大やゆとりの喪失
⇒ 解決策：子育て世代(世帯)の負担やストレスの軽減

問22 児童虐待が発生する原因は何だと思いますか。
また、それをなくしていくためにはどのようなことが必要だと思いますか。
あなたの考えを教えてください。(自由に書いてください。)

※ 記入のあった674名(記入率：79.2%)の記述を細分化のうえ内容ごとに分類・集計し、さらに大項目ごとにまとめた。

(1)児童虐待の発生原因について

細分化した記述内容の総数= 1,246	記述された内容の数	割合(%)
社会環境や経済環境の変化による負担の増大やゆとりの喪失 (不安定な経済情勢、ゆとりの喪失、核家族化、子育ての孤立化 等)	568	45.6
親(保護者)自身の問題や状態 (精神的な未成熟、無自覚、幼少期の親子関係などの成育歴 等)	538	43.2
家族・家庭内の問題 (夫婦間、家族間のコミュニケーション不足 等)	83	6.7
学校教育のあり方の問題 (個人主義の強調、権利偏重、ゆとり教育、道徳教育の不足 等)	24	1.9
その他 (「原因の特定は困難」、「わからない」、「虐待行為自体が理解しがたい」 等)	33	2.6

(2)児童虐待をなくすために必要なこと(解決策)について

細分化した記述内容の総数= 795	記述された内容の数	割合(%)
子育て世代(世帯)の負担やストレスの軽減 (身近な相談場所の確保、経済・雇用面の支援、親同士の交流の場の確保 等)	199	25.0
家庭を取り巻く地域による支援や見守り (地域・社会全体で子どもを育てるという意識の醸成、近隣同士の交流 等)	194	24.4
親(保護者)に対する教育の実施 (子どもの人権に関する教育、道徳教育、親の自覚や育児に関する教育 等)	124	15.6
児童虐待の未然防止・早期把握のための体制づくり (保育士・教員等による状況把握、民生・児童委員の活動強化 等)	58	7.3
広報啓発の徹底・強化 (通告への抵抗感の軽減、テレビコマーシャル等による幅広い啓発 等)	47	5.9
家族・家庭内のコミュニケーションの充実 (夫婦の相互協力、親子の触れ合い 等)	39	4.9
発生時の対応強化 (被害を受けた子どもの最優先の保護、行政機関の積極的関与 等)	37	4.7
子育てのしやすい社会環境の整備 (仕事と子育ての両立が可能となる環境整備、子育てに対する社会的評価 等)	35	4.4
その他 (高リスク世帯への支援体制強化、虐待者処罰の厳格化、性モラルの教育 等)	62	7.8

●発生原因については、社会・経済情勢の変化および親自身の問題に関する指摘が多かった。

●解決策としては、子育ての負担やストレスの軽減、地域や社会による子ども・家庭の支援に関する指摘が多かった。

Ⅲ 調 査 票

問3 あなたは、日頃、長野県の「山」とどのような関わりを持たれていますか。あてはまるものを選んでください（○はいくつでも）。

- ① 山岳環境保全活動
- ② 狩猟
- ③ 森林整備(仕事として)
- ④ 森林整備(ボランティアとして)
- ⑤ 薪の調達
- ⑥ きのこと・山菜狩り
- ⑦ 観光(利用者として)
- ⑧ 観光(事業者として)
- ⑨ スキー・スノーボードなどのウィンタースポーツ
- ⑩ 登山・トレッキング
- ⑪ 環境学習
- ⑫ 日常的な生活の場
- ⑬ 信仰
- ⑭ 森林などの所有者
- ⑮ その他()
- ⑯ 特になし

問4 あなたは、長野県の「山」に関して、どのような課題があるとお考えですか。あてはまるものを選んでください（○はいくつでも）。

- ① オーバーユース(登山者の増加に伴う植物への影響、ゴミ問題等)
- ② 山小屋トイレの管理
- ③ 登山道の維持・修繕
- ④ 野生鳥獣による高山植物の食害
- ⑤ 野生鳥獣による農林業被害
- ⑥ 狩猟者の減小
- ⑦ 山岳環境の保全を担う人材不足
- ⑧ 森林整備を担う人材不足
- ⑨ 森林の荒廃
- ⑩ 観光客の減少
- ⑪ 観光施設等の維持・向上
- ⑫ 観光利用等のPR
- ⑬ 山岳遭難事故
- ⑭ 「山」に関する学習機会の不足
- ⑮ 「山」に関する課題の解決に必要な経費の捻出
- ⑯ その他()
- ⑰ 特になし

問5 県では、長野県の「山」を対象とした記念日（以降、「山の日」（仮称）と呼びます。）の制定に向け、現在検討を進めています。
あなたは、長野県の「山の日」（仮称）を制定することに賛成ですか、反対ですか。あてはまるものを1つ選んでください。

- ① 賛成
② 条件付きで賛成
- ③ わからない
④ 反対 ⇒問9へ

また、上記の答えを選んだ理由を記載してください。

理由()

問6 問5で①、②または③と答えた方に伺います。仮に、長野県の「山の日」（仮称）を制定するとした場合、いつ頃がよいとお考えですか。またその理由をお書きください。

目付・時期等 ()

※記載例:○月△日、○月、○月～△月、○季

理由 ()

問 7 問5で①、②または③と答えた方に伺います。仮に、長野県の「山の日」（仮称）を制定するとした場合、どのような名称がよいとお考えですか。

名称 ()

問8 問5で①、②または③と答えた方に伺います。仮に、長野県の「山の日」（仮称）を制定するとした場合、制定に向けて県はどのような取組を進めていくべきだと思いますか。あてはまるものを選んでください（〇はいくつでも）。

- ① 環境保全活動
- ② 自然観察会
- ③ 木工教室
- ④ 植樹祭
- ⑤ 森林ボランティア
- ⑥ 登山イベント
- ⑦ きのこなど特産品のPR
- ⑧ イベント情報の作成
- ⑨ イベント等への助成
- ⑩ 施設利用優待
- ⑪ 都市部への長野県の山のPR
- ⑫ 登山者向け講習会
- ⑬ 山岳遭難防止の啓発活動
- ⑭ 写真や絵画等のコンクール
- ⑮ シンポジウム
- ⑯ その他()
- ⑰ 特になし

【児童虐待防止対策について】

児童虐待は児童相談所の対応件数が全国的に増加し、死亡事例も後を絶たないなど、社会全体で解決すべき大きな課題となっています。

このため、虐待防止に係る県民の皆様のご意識や効果的と考える防止施策を把握し、長野県にふさわしい、今後の児童虐待防止施策を企画・立案するための基礎資料として伺います。

また、昨年度、児童虐待防止対策を強化するために緊急的に実施した広報啓発事業の浸透度について伺います。

○子育ての負担・悩みについて

問9 あなたは、家庭での子育ての経験がありますか。(○は1つ)

- ① 経験あり ② 経験なし ⇒ 問14へ

問10 問9で、①「経験あり」と答えた方にお伺いします。

あなたが、子育てを負担に感じる（感じた）、または子育てに悩む（悩んだ）ときはどのような場合ですか。あてはまる場合をすべて選んでください。

(○はいくつでも。ただし、⑧を選んだ場合は、他の項目は選ばないでください。)

- ① 子どもが言うことを聞かない(聞かなかった)とき
- ② しつけの仕方や叱り方など対応の方法がわからない(わからなかった)とき
- ③ 仕事や生活などが大変で、気持ちに余裕がない(なかった)とき
- ④ 夫や妻(内縁関係である場合を含みます)、その他の家族・親族から子育ての協力が得られない(得られなかった)とき
- ⑤ 自分が病気である(であった)とき
- ⑥ 子育てしている(していた)間はいつも
- ⑦ その他〔具体的に
- ⑧ 子育てを負担に感じる(感じた)ことや、悩む(悩んだ)ことがない ⇒問14へ

問11 問10で、⑧と答えた方「以外」の方にお伺いします。

あなたは子育ての負担や悩みについて、だれ（どこ）かに相談しましたか。

(○は1つ)

- ① 相談した ⇒問12へ
② 相談しなかった ⇒問13へ
③ わからない、覚えていない ⇒問14へ

問12 問11で、①「相談した」と答えた方にお伺いします。
だれ（どこ）に相談されましたか。あてはまるものをすべて選んでください。
（○はいくつでも）

- ① 夫や妻（内縁関係である場合を含みます）
- ② その他の家族や親族（親、きょうだいなど）
- ③ 隣近所の人
- ④ 子どもが通う保育所や幼稚園、学校の親仲間
- ⑤ 子育てサークルなどの親仲間
- ⑥ インターネット（ブログ、サイト、ツイッターなど）
- ⑦ 友人・知人（③～⑥以外）
- ⑧ 市町村の相談窓口（福祉事務所、児童福祉担当課、子育て支援担当課など）
- ⑨ 市町村の保健センター
- ⑩ 民生・児童委員、主任児童委員
- ⑪ 子育て支援センター、子育てサロン（親子のつどいの広場）など
- ⑫ 保育所、幼稚園、学校の教職員
- ⑬ 病院の医師、看護師、助産師など
- ⑭ 児童相談所
- ⑮ 保健所
- ⑯ 県の福祉事務所
- ⑰ 民間の電話相談や相談室など
- ⑱ 県の児童虐待・DV24時間ホットライン
- ⑲ その他（具体的に

※回答後は、問14 へ

問13 問11で、②「相談しなかった」と答えた方にお伺いします。
相談しなかった理由として思いあたることをすべて選んでください。（○はいくつでも）

- ① 相談するほどのことではないと思ったから
- ② 自分自身で解決（対応）すべきことだと思ったから
- ③ ほかに人にはわかってもらえないことだと思ったから
- ④ ほかに人に知られたくなかったから
- ⑤ 相談できる相手がいなかったから
- ⑥ どこにどう相談していいかわからなかったから
- ⑦ 相談したら、逆に親の自分が責められると思ったから
- ⑧ その他（具体的に

問14 すべての方にお伺いします。

子育ての負担や悩みを抱えた親（保護者）に、関係機関（市町村の相談窓口、児童相談所など）へ早期に相談してもらうためには、次のうちどのようなことが最も重要だと思いますか。（○は1つ）

- ① どのような相談先があるのか周知すること
- ② 相談した場合にどのような支援が受けられるのか周知すること
- ③ こんにちは赤ちゃん事業(※)など、家庭への訪問活動を増やすこと
- ④ 行政の窓口だけでなく、身近な相談先(例:NPO法人、子育てサークルなど)を増やすこと
- ⑤ その他〔具体的に

※「こんにちは赤ちゃん事業」とは、保健師などが生後4カ月までの赤ちゃん（乳児）がいる家庭を訪問し、親子の心身状態や養育状況の把握、育児についての助言などを行う市町村の事業です。

○児童虐待防止について

問15 「児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法）」では、児童虐待を受けたと思われる児童を発見した者は、市町村または児童相談所（もしくは福祉事務所）に通告（相談）しなければならないと、通告の義務が規定されています。あなたはこのことを知っていましたか。（○は1つ）

- ① 通告・相談先を含めて、通告の義務があることを知っていた
- ② 通告・相談先は知らなかったが、通告の義務があることは知っていた
- ③ 通告・相談先は知っていたが、通告の義務があることは知らなかった
- ④ まったく知らなかった

問16 もし、あなたが児童虐待を受けたと思われる児童を発見して通告（相談）するときに、不安に思うことをすべて選んでください。
（○はいくつでも。ただし、①を選んだ場合は、他の項目は選ばないでください。）

- ① 特にない
- ② すぐに対応してもらえらるだろうか
- ③ 通告されたことに子どもの親（保護者）が腹を立て、虐待がますますひどくなるのではないか
- ④ 親（保護者）が逮捕されたり、子どもが施設に送られるなど、大変なことになるのではないか
- ⑤ 虐待ではなかった場合、あとで自分が責任を負わされるのではないか
- ⑥ 自分が通告したことが、子どもの親（保護者）や家族にわかってしまうのではないか
- ⑦ 通告したことでその子どもの親（保護者）や家族との関係が気まずくなるのではないか
- ⑧ 通告（相談）の手続きなどが面倒ではないか
- ⑨ その他〔具体的に

問17 次にあげる親（保護者）の「行為（行為をしないことを含む）」で、あなたが児童虐待にあたると思うものをすべて選んでください。（○はいくつでも）

- ① 買い物をしている間、乳幼児を車の中に残しておくこと
- ② 子どもに「あなたなんか、生まれてこなければよかった」とたびたび言うこと
- ③ 夜、寝かしつけた幼い子どもを家に残して、外出すること
- ④ カッとなって、つい子どもを叩いてしまうこと
- ⑤ 子どもからの話しかけを無視して、それに答えないこと
- ⑥ しつけのために、子どもにげんこつをすること
- ⑦ 思春期の子ども（異性）の体を必要以上にさわること
- ⑧ ほかのきょうだいと比べて特定の子どもの対して異なる扱いをすること
- ⑨ 子どものおむつや衣服が汚れていても、取り換えない（着替えさせない）こと
- ⑩ 子どもの将来を考え、子どもに長時間、勉強やスポーツをさせること

問18 虐待を受けたり、その可能性が疑われる子どもを早期に把握するためには、次のうちどのようなことが最も重要だと思いますか。（○は1つ）

- ① 通告制度について周知すること
- ② どのような行為が虐待にあたるのか周知すること
- ③ 保育所、学校、病院など、日常的に子どもと関わる機関が的確に子どもの状況を把握すること
- ④ こんにちは赤ちゃん事業などの家庭訪問活動により、子どもや親に対する直接的な働きかけを増やすこと
- ⑤ 民生・児童委員などによる地域の見守り活動を強化すること
- ⑥ 児童虐待に対応する市町村や児童相談所の相談体制を強化すること
- ⑦ その他（具体的に

○児童虐待防止に関する県の広報啓発について

※添付資料を参考にしてください。

問19 今年3月まで県が実施した下記の広報啓発について見たこと（聴いたこと）があるものに○をつけてください。（○はいくつでも）

- ① 「児童虐待防止」の広告を掲載したバス、電車
- ② 「児童虐待防止」や「子育ての悩み相談」、「妊娠・出産の相談」に関するテレビコマーシャル
- ③ 「児童虐待防止」や「子育ての悩み相談」、「妊娠・出産の相談」に関するラジオコマーシャル
- ④ 「児童虐待防止」や「子育ての悩み相談」、「妊娠・出産の相談」に関する新聞広告
- ⑤ ①から④についてまったく見たこと（聴いたこと）がない ⇒問22へ

問20 問19①から④のうち、1つでも「見たこと（聴いたこと）がある」方にお伺いします。
見た（聴いた）ことで、「児童虐待」や「子育て」、「妊娠・出産」に関して、あなたの意識や行動に何か変化はありましたか。（○は1つ）

- ① 変化があった ⇒問21へ
- ② 変化はなかった ⇒問22へ
- ③ どちらとも言えない・わからない ⇒問22へ

問21 問20で、①「変化があった」と答えた方にお伺いします。
その意識や行動の変化とはどのようなものですか。あてはまるものをすべて選んでください。（○はいくつでも）

- ① 児童虐待が社会的に重要な問題だということを理解した
- ② 児童虐待やその疑いに気がついたら、どのように行動すればよいか分かった
- ③ 児童虐待やその疑いに気がついたら、すぐに連絡（通告）しよう（したい）と思うようになった
- ④ 児童虐待の可能性のある子どもの状況（サイン）が理解できた
- ⑤ 日常生活の中で自分の周囲の子どものしぐさや行動を意識して見る（見守る）ようになった
- ⑥ 妊娠・出産・子育てについて、悩みを持つことはあたり前のことなのだと気づいた
- ⑦ 妊娠・出産・子育ての悩みを、まず誰かに相談することが大切だと理解した
- ⑧ 妊娠・出産・子育ての悩みを抱えたら、どこに相談すればよいか分かった
- ⑨ 妊娠・出産・子育ての悩みを、積極的に相談するようになった
（妊娠・出産・子育ての悩みを抱えたら、積極的に相談したいと思うようになった）
- ⑩ 周囲の妊娠中、子育て中の親（保護者）に対して、できる手助けや支援をする（したいと思う）ようになった
- ⑪ 妊娠・出産・子育てのことを、今までよりも真剣に考えるようになった
- ⑫ その他（具体的に

）

○最後に（児童虐待の原因と解決策について）

- 問22 児童虐待が発生する原因は何だと思われますか。
また、それをなくしていくためにはどのようなことが必要だと思いますか。
あなたの考えを教えてください。（自由に書いてください。）

【お知らせ】県からの情報提供について

アンケート調査以外に県からの各種情報提供（公募委員募集等の案内を含む）を希望する場合には下記の□にチェック「✓」をお願いします。県政モニター登録の際に情報提供を希望されている場合はチェック不要です。

- ※平成25年度に情報提供をする予定の項目
- ・県民協働による事業改善制度点検者の募集
 - ・各種審議会公募委員の募集

☐

※チェックした場合には必要な範囲で登録された情報を関係する課に提供する場合があります。

1 「ひとごとではありません」篇

子どもへの虐待は、
ひとごとではありません。

虐待を受けている子どものサイン

不自然なアザや傷がある。

夜、子どもが外をうろろしている。

長時間泣きわめいている。

いつも汚れた服を着ている。

※上記のサインが必ず虐待を受けているということではありません。

あなたの秘密は
守られます。

あなたの勇気で、救われる子どもがいる。

虐待?と思ったらすぐお電話を。

児童相談所全国共通ダイヤル

0570-064-000

または市町村（児童福祉担当窓口）へ



2 「電話A」篇



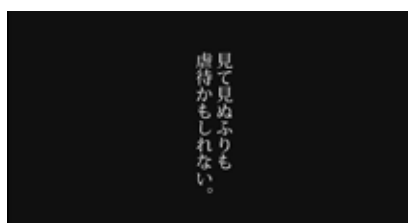
0570-064-000



0570-064-000



0570-064-000



見て見ぬふりも
虐待かもしれない。



勇気を出して



あなたの秘密は、守られます。



虐待?と思ったらすぐお電話を。

児童相談所全国共通ダイヤル

0570-064-000

または市町村（児童福祉担当窓口）へ



3 「電話B」篇



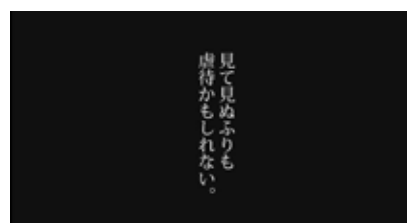
0570-064-000



0570-064-000



0570-064-000



見て見ぬふりも
虐待かもしれない。



勇気を出して



あなたの秘密は、守られます。



虐待?と思ったらすぐお電話を。

児童相談所全国共通ダイヤル

0570-064-000

または市町村（児童福祉担当窓口）へ



長野県「子育ての悩み相談」テレビコマーシャル（コンテ）

1 「あなただけで抱え込まないで」篇	2 「お母さん」篇	3 「お父さん」篇	4 「おばあさん」篇
<p>子育てに 悩みのない 親なんて、いない。</p>	<p>子ども、つらい時を乗り越えることがあった。</p>	<p>子どもも、つらい時を乗り越えることがあった。</p>	<p>つらい時を、子育てはつらい。</p>
<p>つい、キツイ言葉で叱ってしまう。 うまく子どもと接することができない。 出産への不安がある。 育児を助けてくれる人がいない。</p>	<p>完璧なお母さん、 なんていない。</p>	<p>ビジネスマンで ある前に、 父親だった。</p>	<p>親も、 子どもといっしょに 育っていく。</p>
<p>あなただけで 抱え込まないで 下さい。</p>			
<p>頼れる相談相手があります。</p>			
<p>子育ての悩みを話してください。 お住まいの市町村へ （子育て支援・児童福祉担当窓口） または724ダイヤルへ 0570-064-000 児童相談所生活支援ダイヤル</p>			
	<p>「お母さん」を 楽しもう。</p>	<p>「お父さん」を 楽しもう。</p>	<p>あなただけで 抱え込まないで。</p>
<p>子育ての悩みを話してください。 お住まいの市町村へ （子育て支援・児童福祉担当窓口） または724ダイヤルへ 0570-064-000 児童相談所生活支援ダイヤル</p>		<p>子育ての悩みを話してください。 お住まいの市町村へ （子育て支援・児童福祉担当窓口） または724ダイヤルへ 0570-064-000 児童相談所生活支援ダイヤル</p>	<p>子育ての悩みを話してください。 お住まいの市町村へ （子育て支援・児童福祉担当窓口） または724ダイヤルへ 0570-064-000 児童相談所生活支援ダイヤル</p>

1 「ディスカッション A」篇



2 「ディスカッション B」篇



長野県 児童虐待防止 ラッピングバス広告・電車ボディ広告(各路線バス・電車掲出例)

アルピコ交通



長電バス



上田バス



千曲バス



ジェイアールバス関東



信南交通



しなの鉄道



JR大系線

